

3 市民による個別事業評価

3 市民による個別事業評価

3.1 市民全体を調査対象とした個別事業評価

調査対象を市民全体（年代・性別を問わない）とした個別事業評価については、「2 市民による市政評価」の調査票に合冊し、併せて実施した。

従って、調査対象、回答率、回答者の属性については、市民による市政評価の結果と同じ（p 4～6を参照）になっている。

3.1.1 健幸まちづくりプロジェクトについて（健康福祉部健幸まちづくり推進室）

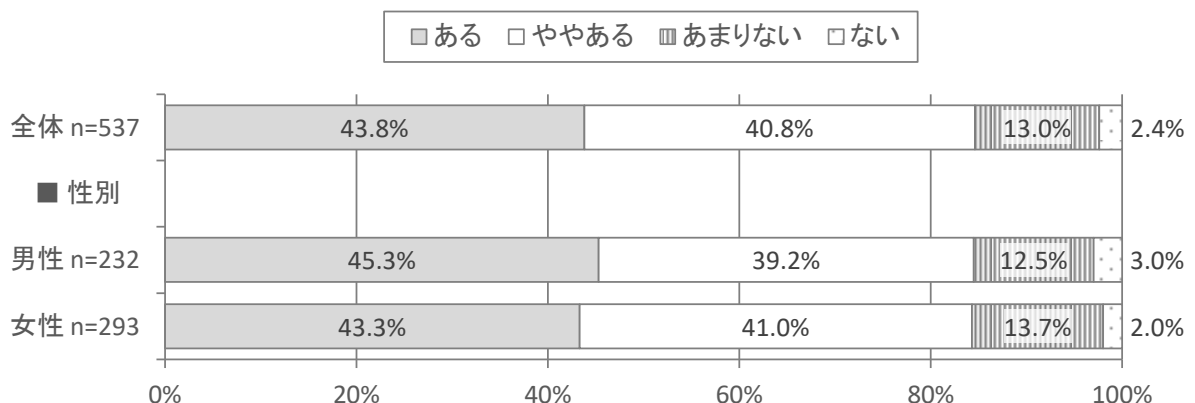
◆ 調査目的： 市では、人生100年時代を迎えた今、市民の皆さんが自分らしくいきいきと活躍し、人と地域が元気になる新たな取組として、令和2年10月1日にタニタグループとの連携による「健幸まちづくりプロジェクト」をスタートした。

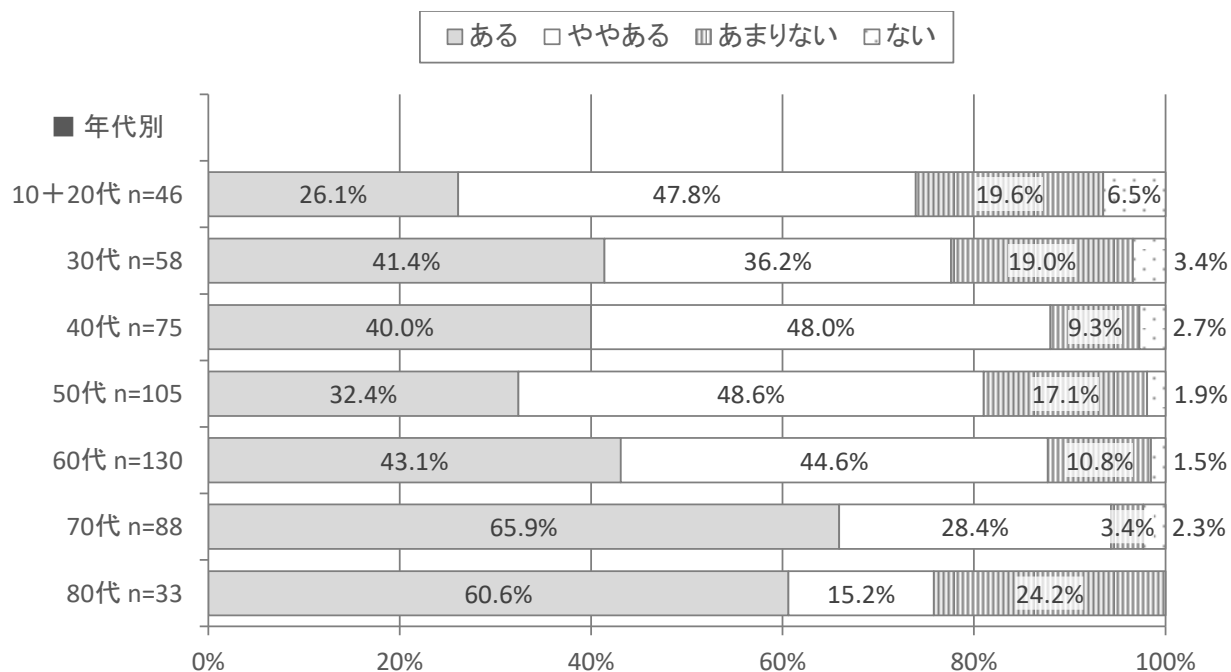
このプロジェクトは、全市民及び市内に通勤する方を対象として、歩くことを基本に、無理なく楽しみながら取り組むことができるプログラムを通じ、市民の皆さんの健康づくりを応援するものである。

本調査では、プロジェクトの参加・活動状況やご意見を伺い、より多くの方からご参加いただけるよう、参加の拡大と継続に資する取組を推進していくための参考とする。

【問1】あなたは、健康づくりに関心がありますか。

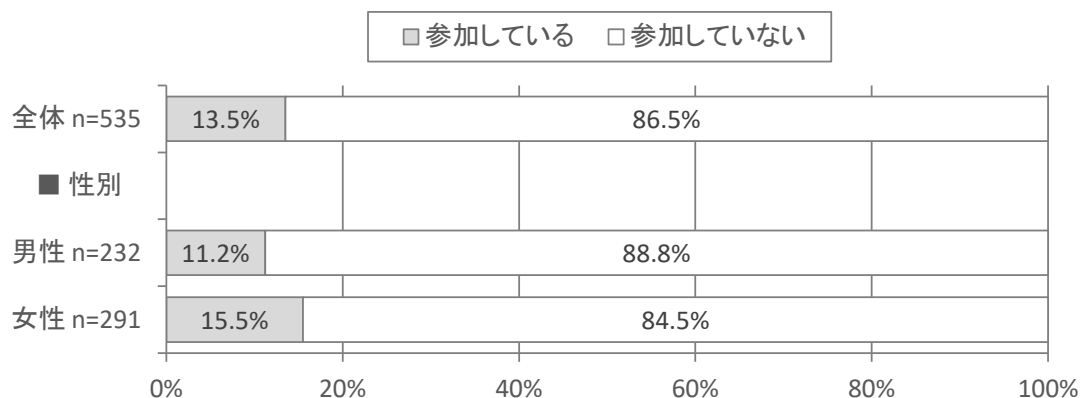
- 全体では、「ある」の割合が43.8%で最も高く、「ある」と「ややある」を合わせた割合は84.6%となっており、程度を問わず関心があると回答している方は8割を超えている。
- 性別で見ると、男女とも「ある」と「ややある」を合わせた割合が8割を超えており、大きな差異は見られない。
- 年代別で見ると、「ある」と「ややある」を合わせた割合は、70代までは年代が上がるにつれて増加する傾向となっており、70代以上では「ある」の割合が突出している。一方で、80代では関心がないに関する回答の割合が比較的高くなっている。

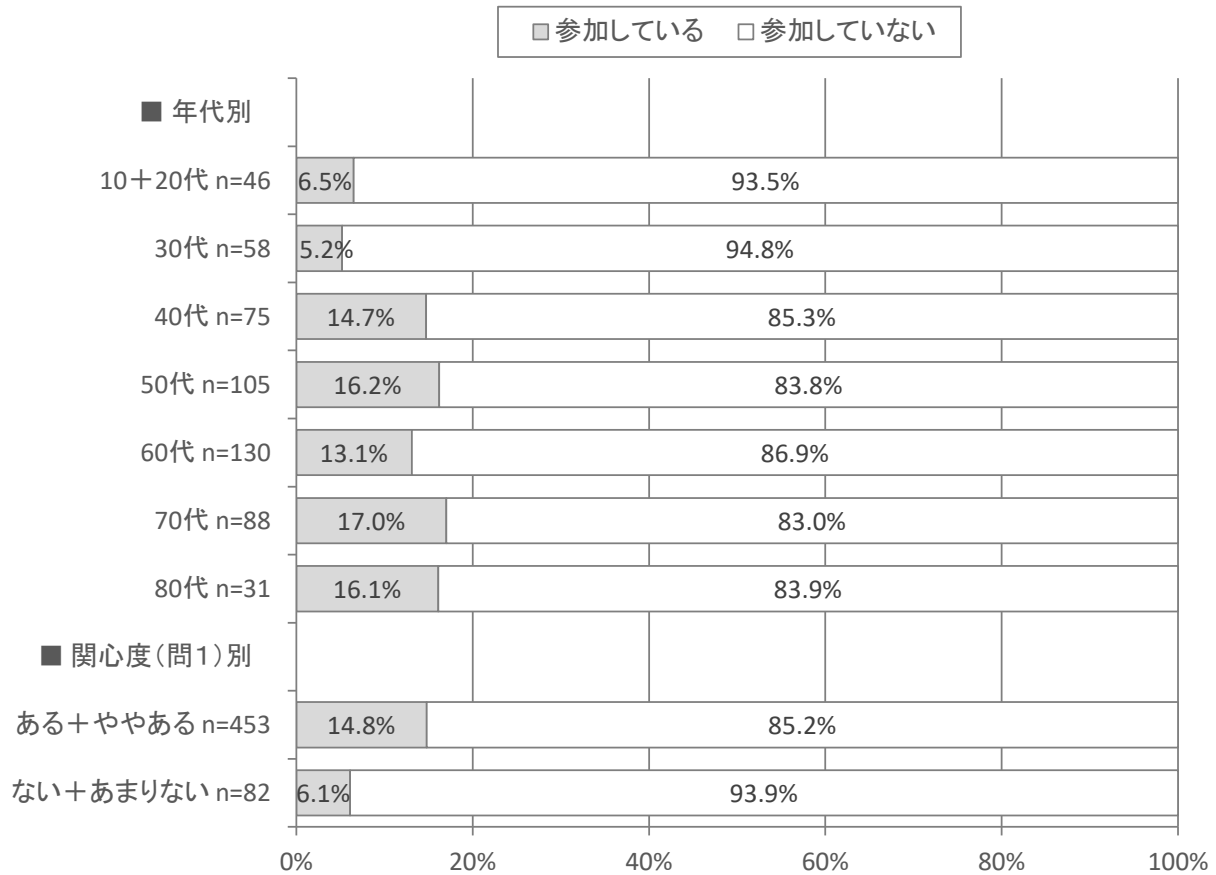




【問2】あなたは、「健幸まちづくりプロジェクト」に参加していますか。

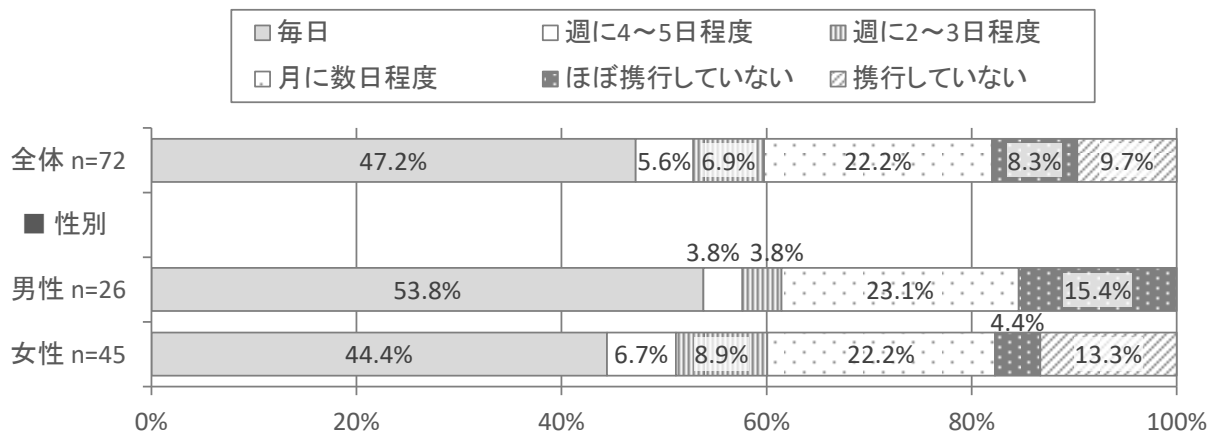
- 全体では、「参加していない」の割合が86.5%となっており、8割を超えている。
- 性別で見ると、大きな差異は見られないが、女性の参加率が男性よりやや高くなっている。
- 年代別で見ると、「参加していない」の割合は30代以下で9割を超えており、若い世代の参加率が低くなっている。
- 問1の関心度別に「参加している」の回答割合を見ると、関心が「ある」または「ややある」（ある+ややある）と回答した方は、「ない」または「あまりない」（ない+あまりない）と回答した方より高くなっているが、14.8%で全体と大きな差はない。一方で、関心が「ない」または「あまりない」（ない+あまりない）と回答した方の割合は6.1%となっており、大きな差が生じている。





【問3】活動量計（愛称：うおーくん）を継続的に携帯していますか（携帯時間は問いません）。
（問2で「1. 参加している」と回答した方）

- 全体では、「毎日」の割合が47.2%で最も高く、「週に2～3日程度」以上の比較的携帯頻度が高い項目の割合を合わせると59.7%となっており、約6割を占めている。一方で、「ほぼ携帯していない」と「携帯していない」の割合を合わせると18.0%となっており、プロジェクトに参加している方でも2割近くの方はあまり携帯していない結果となっている。
- 性別で見ると、男女とも「週に2～3日程度」以上の比較的携帯頻度が高い項目の割合を合わせると6割以上となっているが、「毎日」と回答した方の割合は男性が女性より9.4ポイント高くなっている。

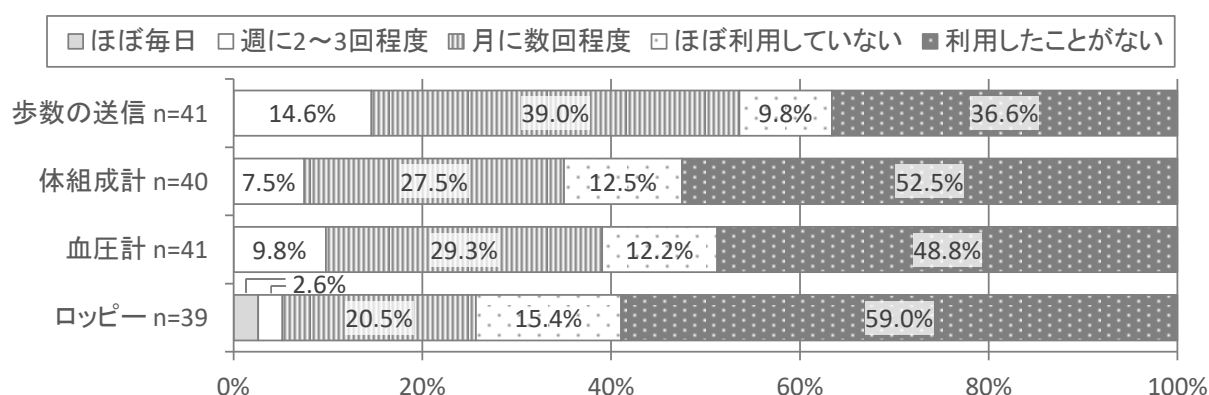


【問4】「健幸スポット」と「ロッピー」をどのくらい利用していますか。

(問3で「1. 毎日」～「3. 週に2～3日程度」と回答した方)

- 歩数の送信は、「月に数回程度」の割合が39.0%で最も高くなっているが、「ほぼ利用していない」と「利用したことがない」の割合を合わせると46.4%となっており、利用していないに関する回答が半数近くを占めている。
- 体組成計と血圧計は、ほぼ同様の傾向となっており、「ほぼ利用していない」と「利用したことがない」を合わせた割合はどちらも6割を超えている。
- ロッピーは、「ほぼ利用していない」と「利用したことがない」の割合を合わせると74.4%となっており、項目の中で一番利用頻度が低くなっている。

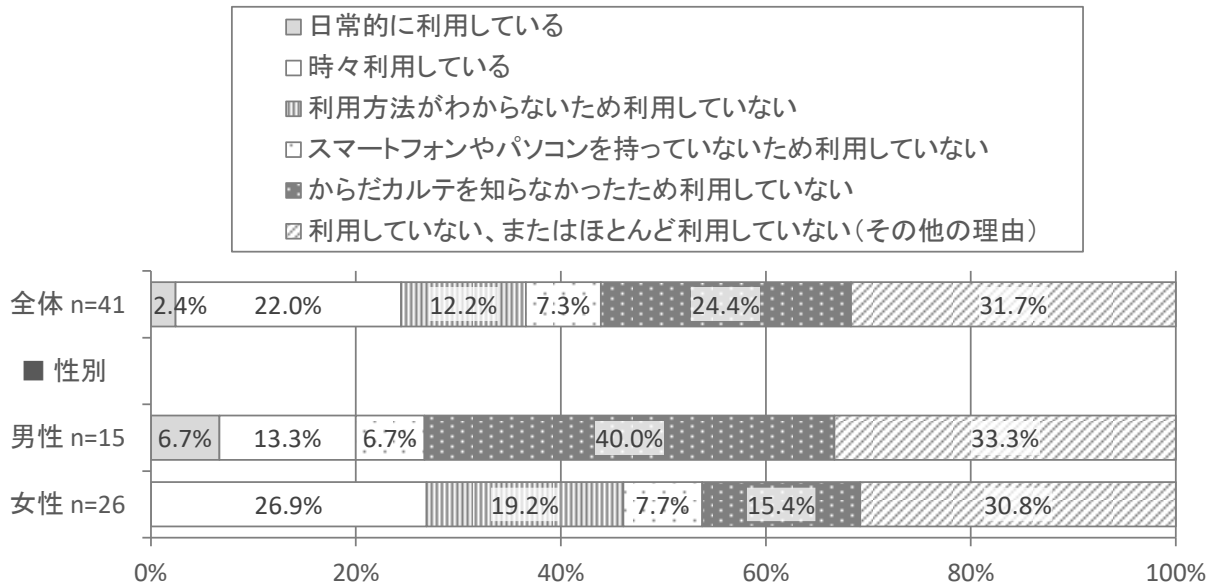
■全体



【問5】「からだカルテ」を利用していますか。

(問3で「1. 毎日」～「3. 週に2～3日程度」と回答した方)

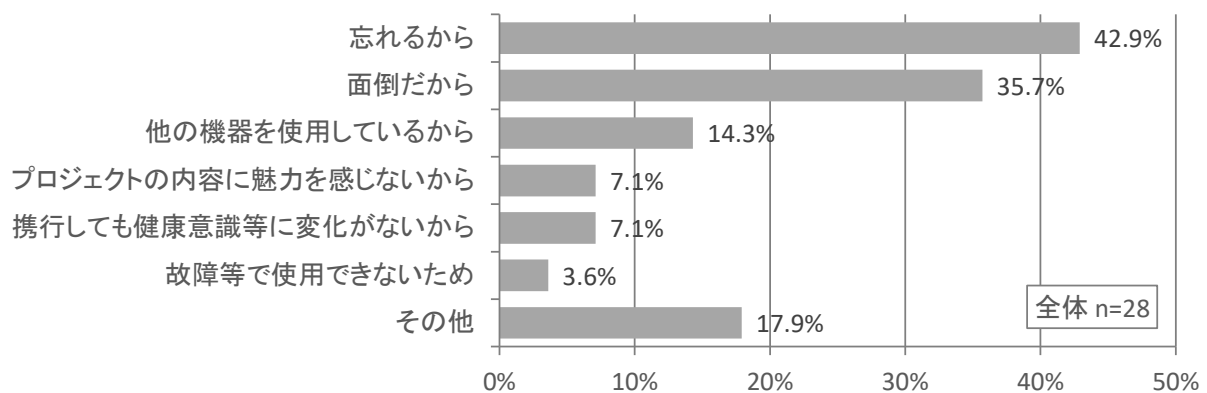
- 全体では、利用していないに関する回答の割合を合わせると75.6%となっており7割を超えている。利用していない理由としては、「その他の理由」の割合が31.7%で最も高くなっており、次いで「からだカルテを知らなかったため」が24.4%となっている。
- 性別で見ると、利用していないに関する回答の割合を合わせると男性が女性より高く、8割を占めている。利用していない理由としては、男性では「からだカルテを知らなかったため」、女性では「その他の理由」の割合が最も高くなっている。また、男性では「からだカルテを知らなかったため」、女性では「利用方法がわからないため」の割合が、異性よりも高くなっている。



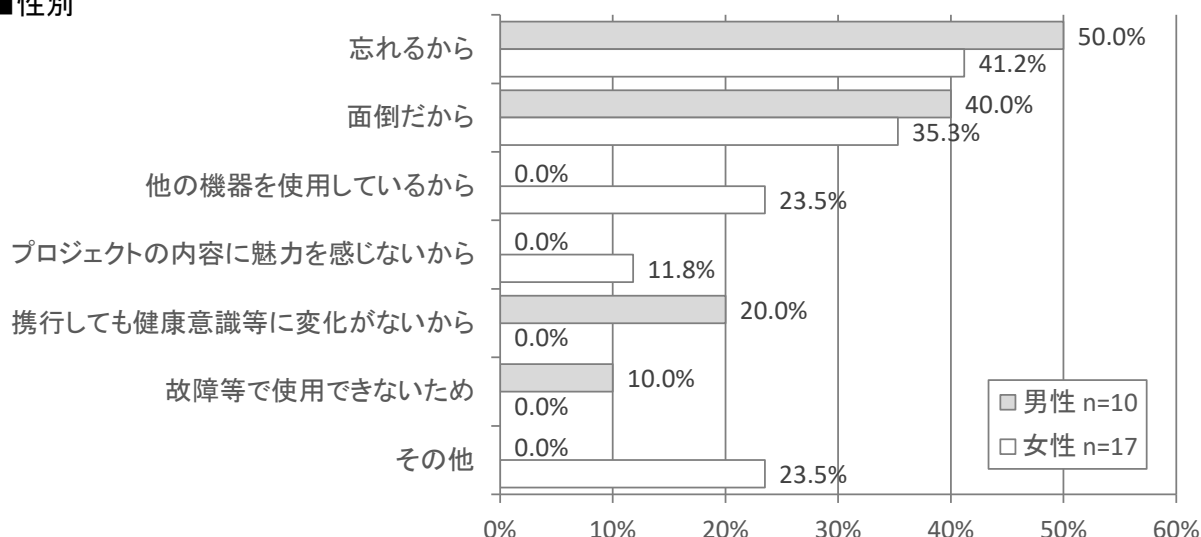
【問6】活動量計（愛称：うおーくん）の携行頻度が低い理由は何ですか。（複数回答可）
（問3で「4. 月に数日程度」～「6. 携行していない」と回答した方）

- 全体では、「忘れるから」の割合が42.9%で最も高く、次いで「面倒だから」が35.7%となっており、上位2項目の回答が突出している。
- 性別で見ると、男女とも「忘れるから」の割合が最も高くなっている。また、異性にはない回答として、男性では「携行しても健康意識等に変化がないから」「故障等で使用できないため」、女性では「他の機器を使用しているから」「プロジェクトの内容に魅力を感じないから」が挙げられている。

■全体



■性別



■その他の回答

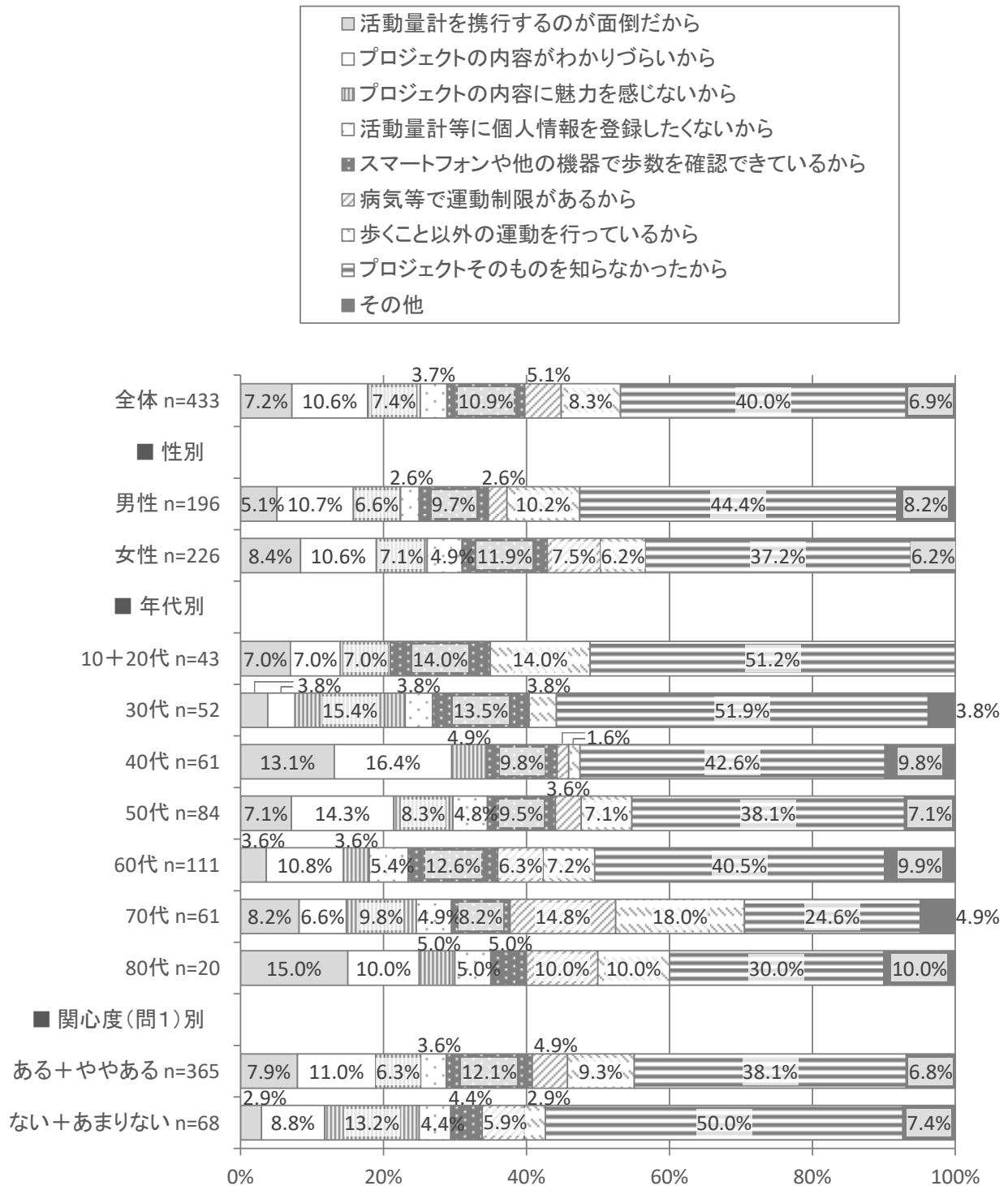
- 足を痛めたため（女性／60代／神岡）
- 仕事日以外に携行している。仕事内容により携行が難しい為。（女性／60代／南外）
- 電池の交換が必要だが、交換していない（女性／70代／中仙）

【問7】健幸まちづくりプロジェクトに参加していない理由は何ですか。

（問2で「2. 参加していない」と回答した方）

- 全体では、「プロジェクトそのものを知らなかったから」の割合が40.0%で最も高く、次いで「スマートフォンや他の機器で歩数を確認できているから」が10.9%、「プロジェクトの内容がわかりづらいから」が10.6%となっている。
- 性別で見ると、男女とも概ね全体と同様の傾向となっており、大きな差異は見られないが、男性では「歩くこと以外の運動を行っているから」、女性では「病気等で運動制限があるから」の割合が、異性よりも比較的高くなっている。
- 年代別で見ると、「スマートフォンや他の機器で歩数を確認できているから」の割合は年代が下がるにつれて増加する傾向となっている。「病気等で運動制限があるから」と「歩くこと以外の運動を行っているから」の割合は70代以上で比較的高く、「プロジェクトそのものを知らなかったから」の割合は低い年代で比較的高くなっている。
- 問1の関心度別で見ると、関心が「ある」または「ややある」（ある＋ややある）と回答した方は、「ない」または「あまりない」（ない＋あまりない）と回答した方と比べて「プロジェクトの内容に魅力を感じないから」「プロジェクトそのものを知らなかったから」の割合が比較的低く、「活動量計を携行するのが面倒だから」「スマートフォンや他の機器で歩数を確認できているから」「歩くこと以外の運動を行っているから」の割合は比較的高くなっている。

3. 1. 1 個別事業評価「健幸まちづくりプロジェクトについて」



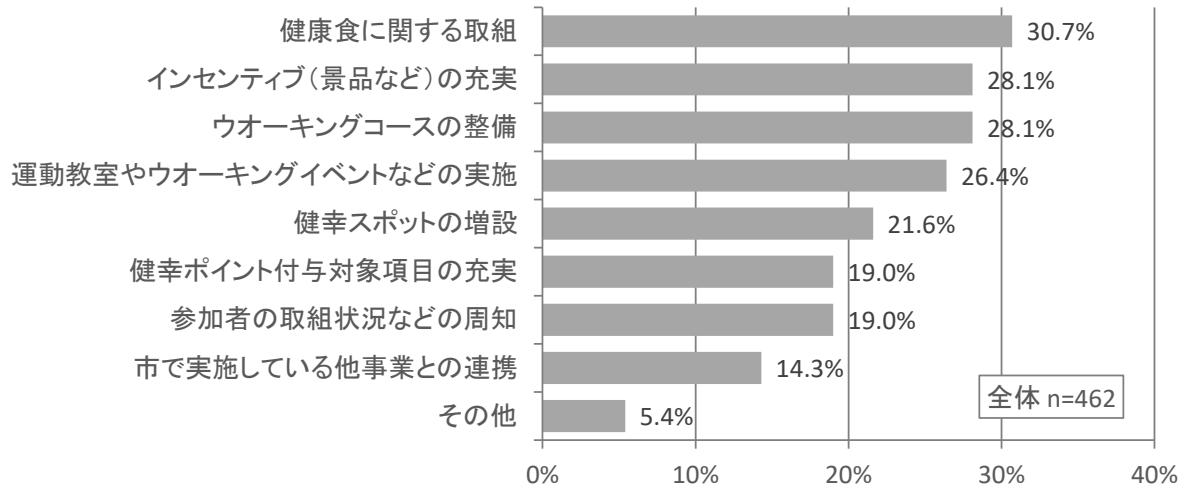
■その他の回答

- 仕事などで忙しく、時間がない（【男性】30代／太田、40代／大曲、50代／中仙、60代／大曲・西仙北、【女性】30代・60代／太田、40代／南外）
- 仕事で体を動かしているから（女性／60代／大曲、男性／60代／大曲、男性／70代／西仙北）
- 活動量計を使いこなせないから（女性／50代／西仙北）
- プロジェクトの内容を良く分かっていない。情報収集不足だと思っている。今後参加してみたい。（女性／50代／中仙）
- 自分の健康は自分で守り、維持・増進している（男性／80代以上／大曲）
- プロジェクトの手続きが面倒。無料配布していただければ利用した（女性／40代／大曲）
- 申込みなどが面倒だから（女性／30代／中仙）
- 心に余裕がない（男性／40代／大曲）
- コロナ禍のため（女性／60代／大曲）

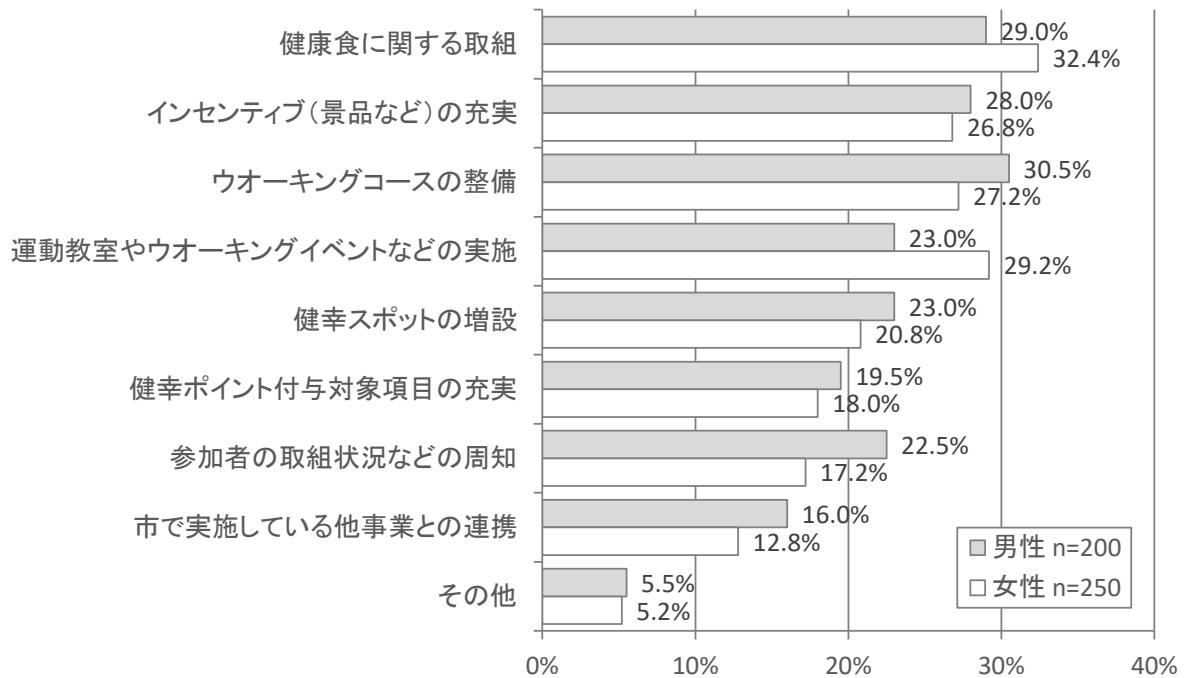
【問8】どのような取組があれば参加したいと思いますか。また、継続して参加したいと思いますか。（3つまで）

- 全体では、「健康食に関する取組」の割合が30.7%で最も高く、次いで「インセンティブ（景品など）の充実」「ウオーキングコースの整備」が同率で28.1%となっている。
- 性別で見ると、男性では「ウオーキングコースの整備」、女性では「健康食に関する取組」の割合が最も高くなっている。また、女性では「運動教室やウオーキングイベントなどの実施」の割合が2番目に高くなっており、男性との差も比較的大きくなっている。
- 年代別で見ると、「健康食に関する取組」と「運動教室やウオーキングイベントなどの実施」の割合は年代が上がるにつれて高くなる傾向となっており、「インセンティブ（景品など）の充実」と「健幸ポイント付与対象項目の充実」の割合は逆に年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。
- 問1の関心度別で見ると、関心が「ある」または「ややある」（ある＋ややある）と回答した方では、「健康食に関する取組」を最上位に、全体とほぼ同様の傾向となっている。関心が「ない」または「あまりない」（ない＋あまりない）と回答した方では、「インセンティブ（景品など）の充実」が突出しており、全体では6番目に高い「健幸ポイント付与対象項目の充実」の割合が3番目に高くなっている。また、関心のある方では、「ウオーキングコースの整備」「運動教室やウオーキングイベントなどの実施」「健幸スポットの増設」の割合が比較的高く、「インセンティブ（景品など）の充実」の割合は比較的低くなっている。
- 問2の参加別で見ると、参加している方では「インセンティブ（景品など）の充実」が突出しているが、全体で最も高い「健康食に関する取組」の割合は比較的低くなっている。参加していない方では「健康食に関する取組」の割合が最も高く、「参加者の取組状況などの周知」「市で実施している他事業との連携」も含めた3項目では、参加している方より割合が高くなっている

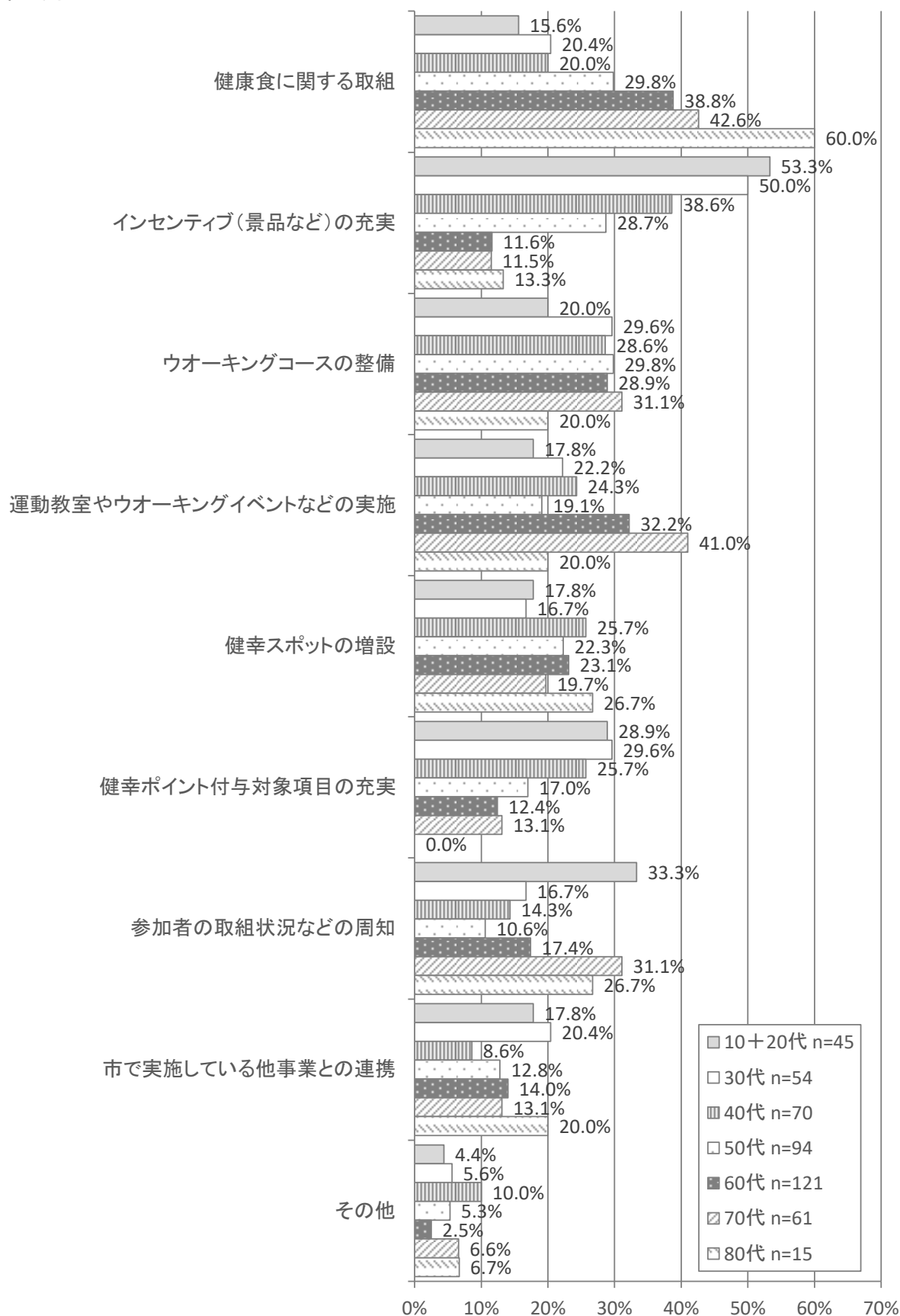
■全体



■性別

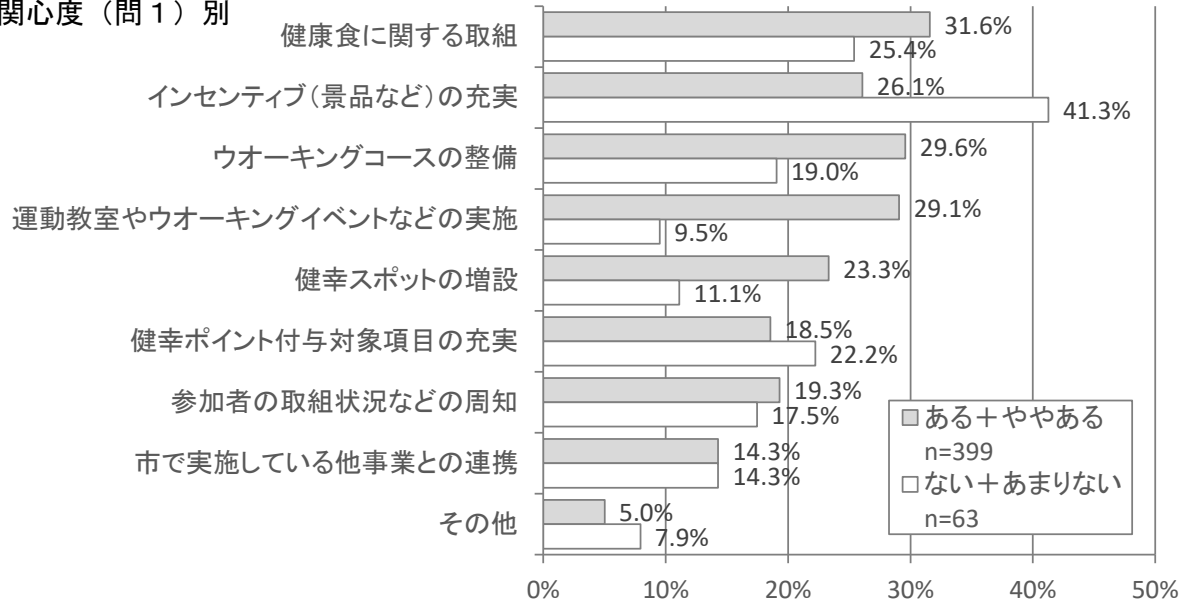


■年代別

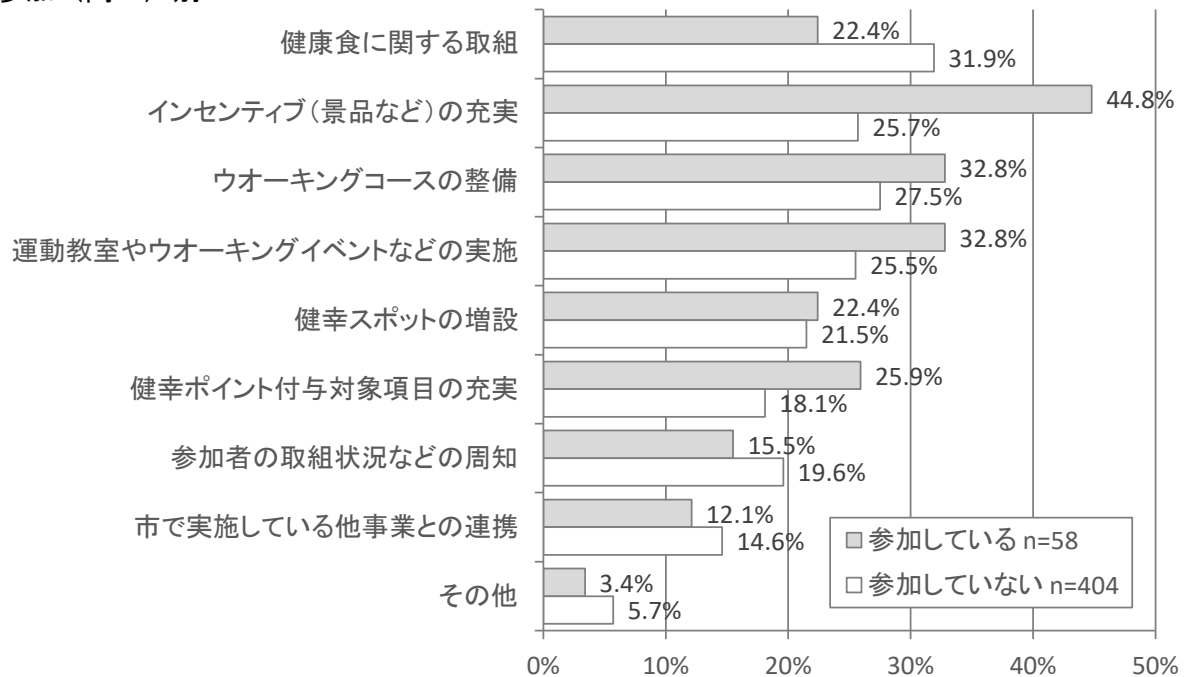


3. 1. 1 個別事業評価「健幸まちづくりプロジェクトについて」

■関心度（問1）別



■参加（問2）別



■その他の回答

- 個人情報の管理が不十分だと思うからそこがクリアしているのであれば、参加してみたい。（女性／30代／大曲）
- 健康である人を表彰、目標づくりにする（男性／40代／大曲）
- インセンティブや健康ポイントは、各人の生活環境もあるので、月単位、年単位で歩数増加や血圧、体組成の正常値への変化等を対象とした他人の取り組みを努力評価にしたらどうでしょうか。（女性／50代／大曲）
- ウォーキングコースを整備し、農道や夜道に反射シール等なしに歩く人を減らしていただけたら、賛同できると思います。（女性／50代／大曲）
- 靴を履いたまま計測できる方がいいです。（女性／70代／仙北）
- 腰痛・肩こり改善メニュー、ストレッチ等を職場で行ってもらえると毎日続けられそう。個人だと億劫になってしまう。（女性／40代／大曲）

- スマホと連携してデータを転送可能なら（女性／40代／中仙）
- 冬でも歩ける消雪道路をたくさん作ってほしい（男性／80代以上／大曲）
- 内容を知ることができて自身に必要とした場合（男性／50代／西仙北）

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 問1の健康づくりへの関心について、「ある」と「ややある」を合わせた割合は84.6%となっており、性別では男性が84.5%、女性が84.3%で性差はなかった。年代別では、最も高い70代の94.3%までは年代が上がるにつれて増加する傾向となっており、全ての年代で7割を超えている。このことから、属性に関わらず健康づくりへの関心が高いことが伺える。

- 一方で、問2の健幸まちづくりプロジェクトの参加状況については、「参加していない」と回答した方が86.5%であった。

健康づくりへの関心度別で見ると、関心度が高いと参加率も高くなる傾向にあるが、関心が「ある」または「ややある」と回答した方でも8割以上の方が参加していない状況であった。

- 問7の健幸まちづくりプロジェクトに参加していない理由については、「プロジェクトそのものを知らなかったから」の割合が40.0%で最も高く、3番目が「プロジェクトの内容がわかりづらいから」の10.6%であった。

年代別でみると、40～60代で「プロジェクトの内容がわかりづらいから」の割合が高く、40代以下では「プロジェクトそのものを知らなかったから」の割合が高かった。

また、「プロジェクトそのものを知らなかったから」について、健康づくりへの関心度別で見ると、「ない」または「あまりない」と回答した方より、「ある」または「ややある」と回答した方が低くなっているが、それでも38.1%と4割近くを占めている。

内容がわかりづらいとの回答については、プロジェクトそのものは認知されているものの、プロジェクトの具体的な内容が周知不足であったと考えられ、それが参加に至らない要因の一つになっていると考えられる。

今後は、本プロジェクトの周知とその方法をより一層強化・工夫していく必要があり、例えば、チラシに限らず、年代に合わせた媒体で周知するなど、効果的な周知方法を検討していく。

- 問8のどのような取組があると参加したいと思うかについては、「健康食に関する取組」が30.7%で最も多く、次いで、「インセンティブ(景品など)の充実」「ウォーキングコースの整備」が28.1%、「運動教室やウォーキングイベントなどの実施」が26.4%であった。

健康づくりへの関心度別で関心が「ある」または「ややある」と回答した方、プロジェクトへの参加別で参加していない方は、どちらも「健康食に関する取組」の割合が最も高くなっていることから、健康への関心の高い層及び未参加者の参加促進を図る上でも、体を動かすイベントなどに加えて、健康食に関する取組についても検討していく。

また、関心が「ない」または「あまりない」と回答した方、既に参加している方は「インセンティブ(景品など)の充実」の割合が突出して高くなっていることから、健康無関心層へのアプローチ及び継続参加を図る取組として、インセンティブの充実についても検討していく。

さらに、「参加者の取組状況などの周知」が19.0%となっていることから、現在実施している市広報を通じた取組状況の周知について、内容のさらなる充実を図るとともに、他の媒体も活用しながら強化していく。

3. 1. 2 市の文化財について

(観光文化スポーツ部文化財課)

- ◆ **調査目的：** 市には、県内唯一の国宝である「線刻千手観音等鏡像」や国指定重要文化財「古四王神社本殿」、国指定史跡「払田柵跡」、国指定名勝「旧池田氏庭園」など、数多くの指定文化財や貴重な文化遺産が伝承されており、一部は教育や観光などの分野で活用されている。

一方で、こうした文化財(※)は、担い手不足や価値の理解不足などにより散逸や消失の危機にさらされており、保護・保存の取組に加え、観光や地域活性化へのさらなる活用による価値や魅力の発信を通じ、伝承につなげていくサイクルの形成が重要となっている。

本調査では、文化財への関心などについてご意見を伺い、今後の文化財の維持や保存、さらなる活用に向けた取組の参考とする。

※文化財には、有形・無形のほか国などから指定されている文化財に加え、指定はされていないものの、歴史的に価値のあるものも多数ある。ここでは、こうした歴史的資産をまとめて「文化財」と表記する。

【問 1】 あなたは、次の指定文化財を知っていますか。また、過去 3 年以内に見学したことがありますか。

■ **知っているか**

- 全体的に「知っている」と「知らない」の差が大きく、文化財別の認知度も対照的となっている。
- 文化財別で見ると、「知っている」の割合は「刈和野の大綱引き」が 97.9%で最も高く、次いで「旧池田氏庭園」「払田柵跡」「旧池田家住宅洋館」と、いずれも 9 割以上を占めている。

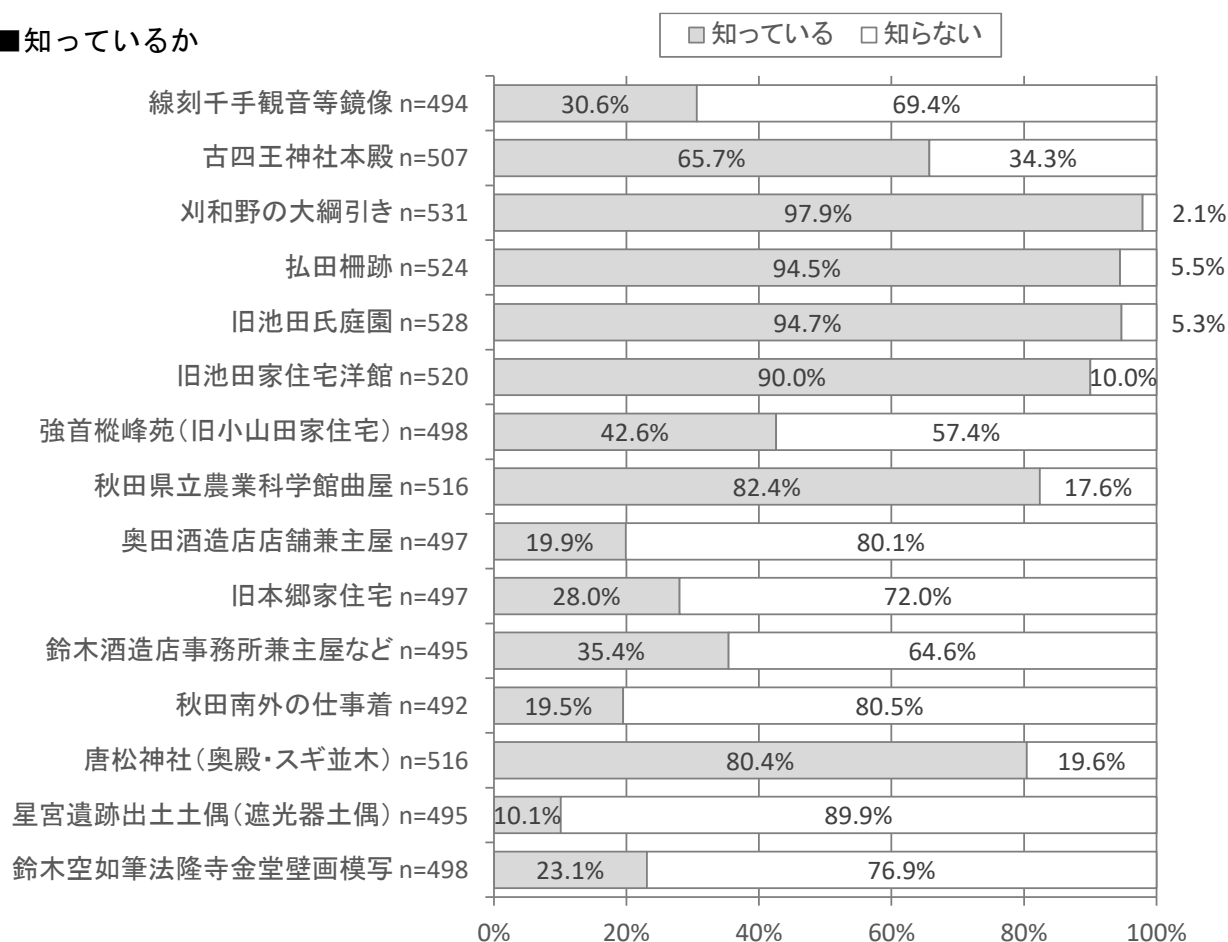
■ **見学したことがあるか**

- 全体的に「見学したことがない」の割合が高くなっており、認知度が高い文化財でも実際に見学したことがある方は少ない結果となっている。
- 文化財別で見ると、「見学したことがある」の割合は「払田柵跡」が 55.0%で最も高くなっているが、半数程度に留まっている。次いで、「秋田県立農業科学館曲屋」が 53.9%となっており、「見学したことがある」が「見学したことがない」を上回っているのはこの 2 項目のみとなっている。

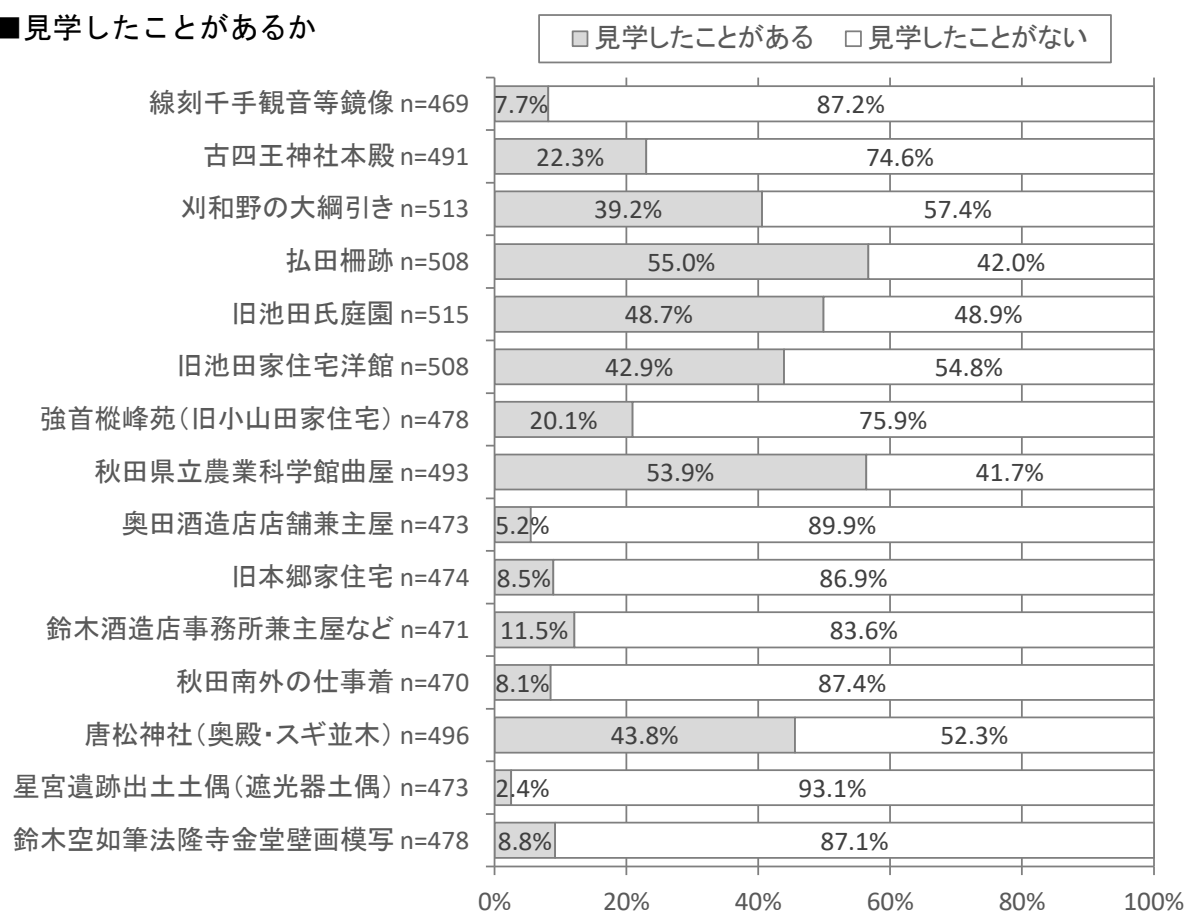
■ **「知っているか」と「見学したことがあるか」の比較**

- 「知っている」と「見学したことがある」の割合の差が大きい文化財は、「古四王神社本殿」「刈和野の大綱引き」「旧池田氏庭園」「旧池田家住宅洋館」で、いずれも差が 40 ポイントを超えており、「刈和野の大綱引き」に関しては 58.7 ポイントの差が生じている。

■知っているか

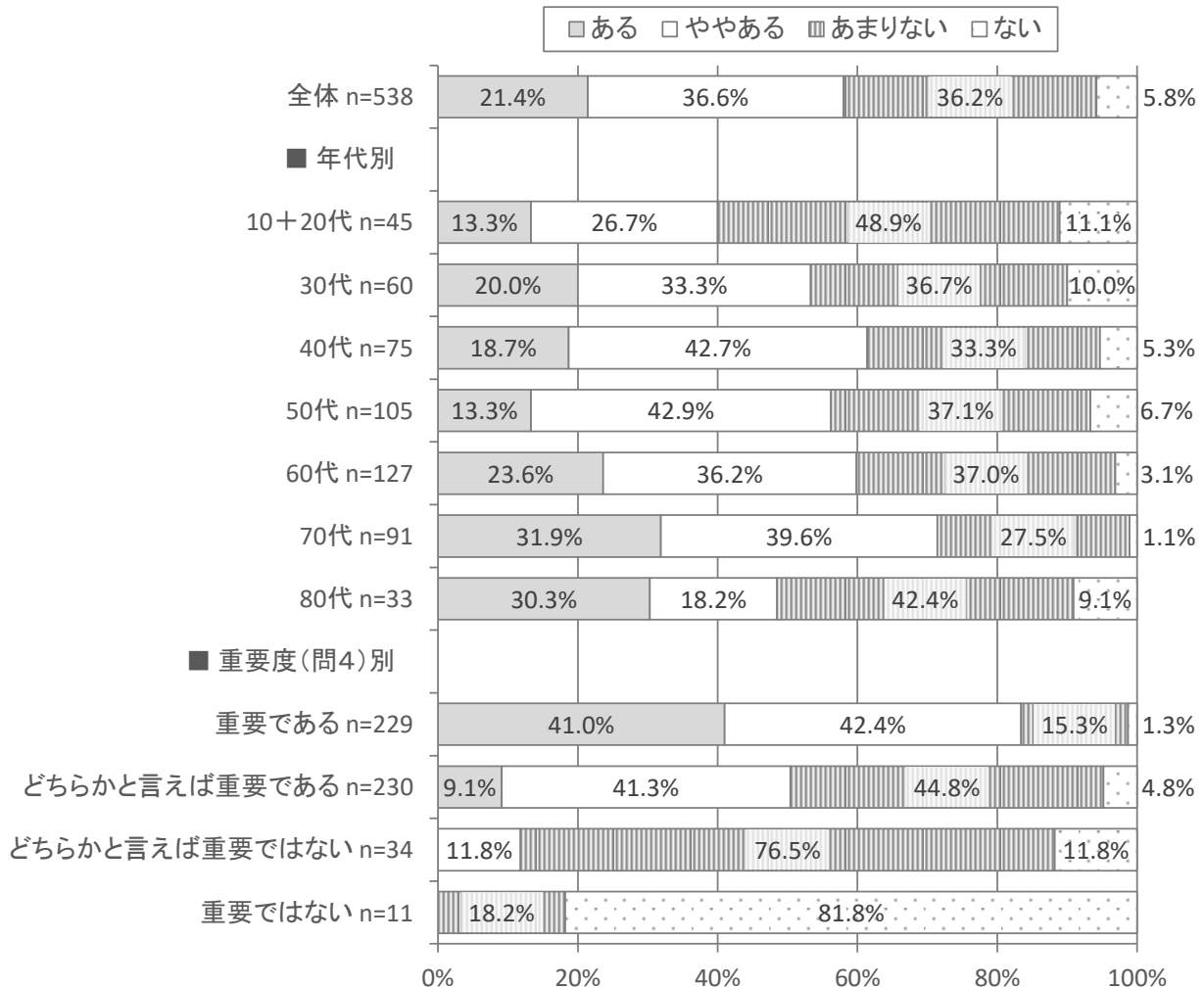


■見学したことがあるか



【問2】あなたは、文化財に関心がありますか。

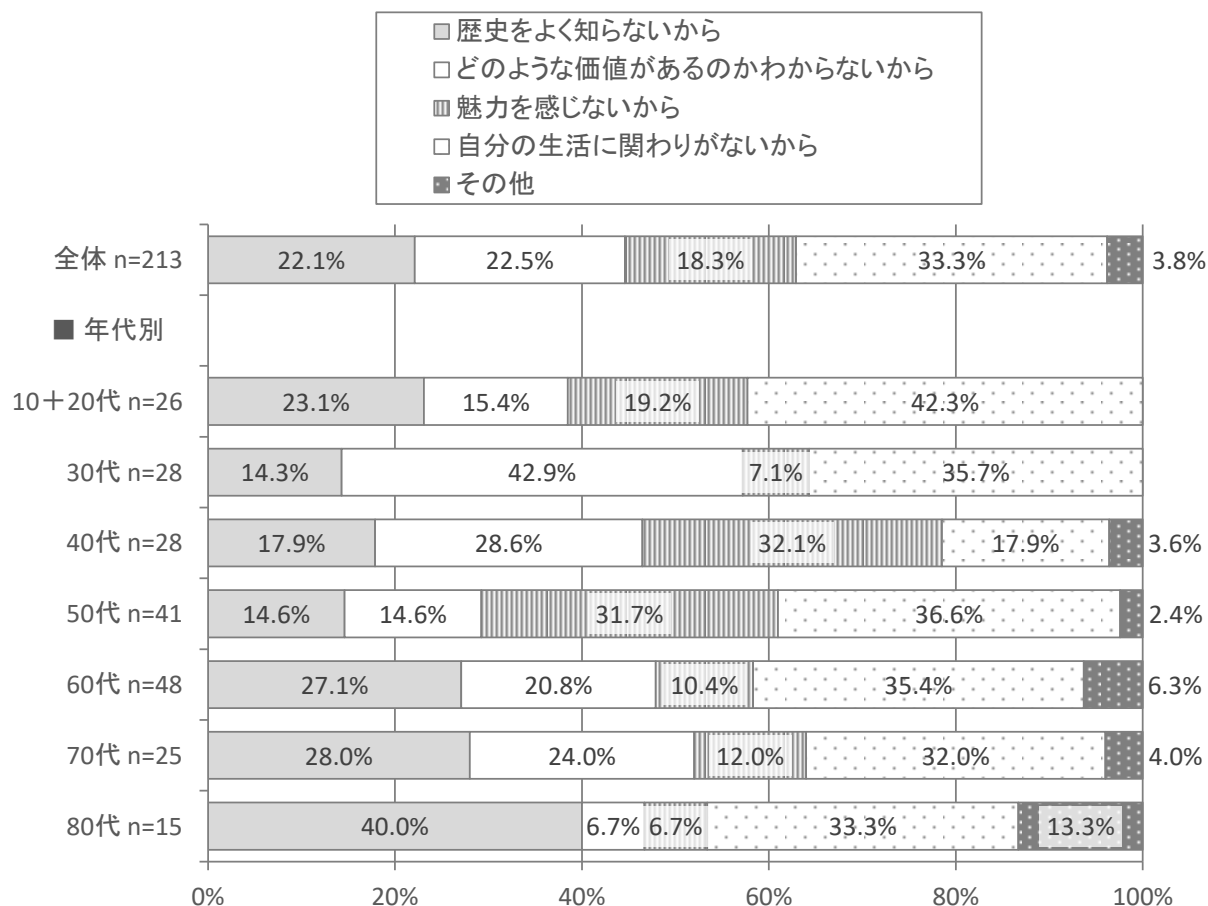
- 全体では、「ある」と「ややある」を合わせた割合は58.0%となっており、6割近くの方が程度を問わず関心があると回答している。
- 年代別で見ると、「ある」と「ややある」を合わせた割合は、80代では減少しているが、年代が上がるにつれて増加する傾向となっている。
- 問4の重要度別で見ると、重要度が減少するにつれて、関心度も減少している。



【問3】関心がない理由は何ですか。

(問2で「3. あまりない」、「4. ない」と回答した方)

- 全体では、「自分の生活に関わりがないから」の割合が33.3%で最も高く、他の理由については、「その他」を除きほぼ同程度の割合となっている。
- 年代別で見ると、「歴史をよく知らないから」の割合は、60代以上の高い年代で高くなっている。30代では「どのような価値があるのかわからないから」、40～50代では「魅力を感じないから」の割合が他の年代よりも比較的高くなっている。

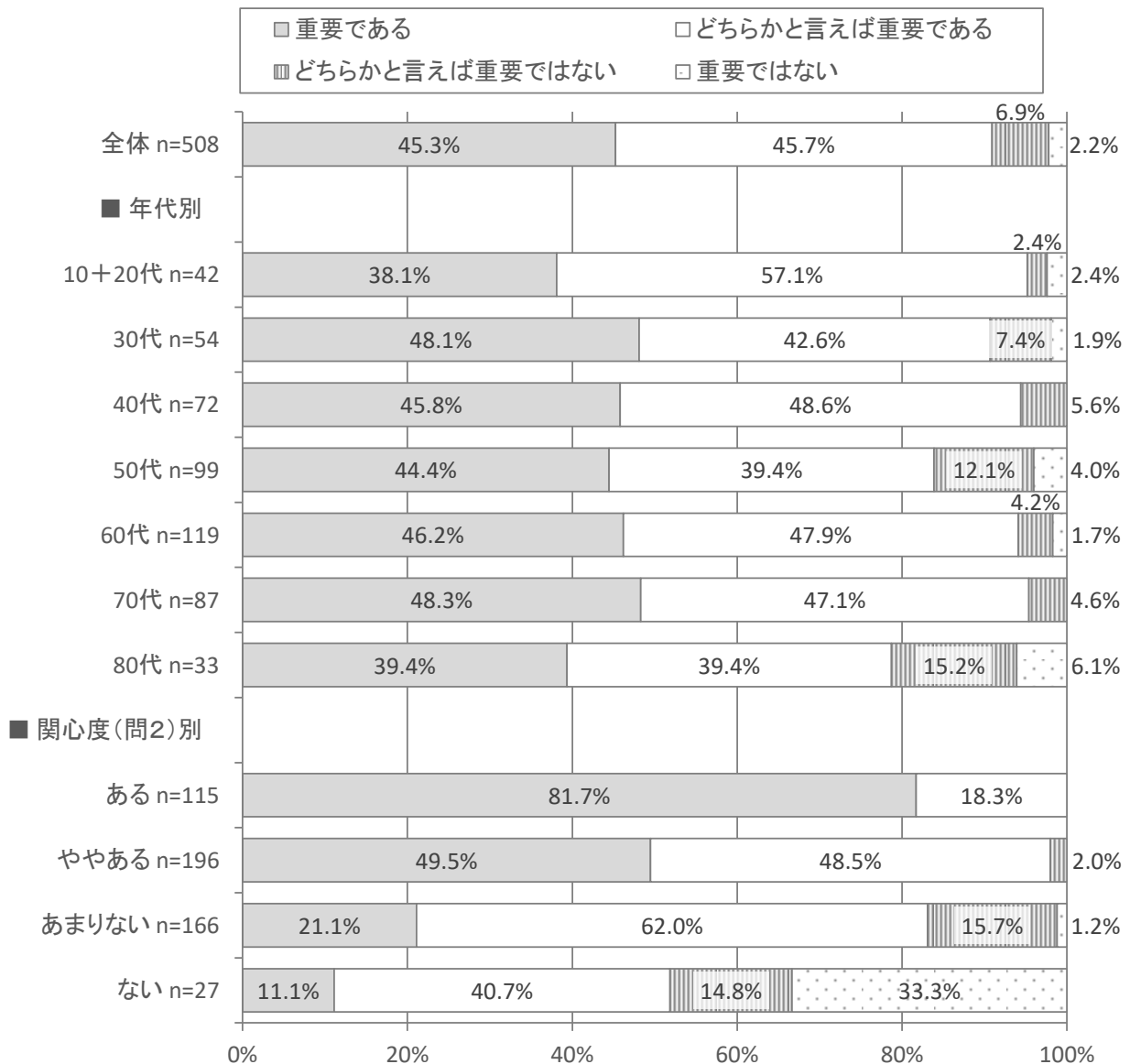


■その他の回答

- 忙しく時間がないため（女性／40代／南外、女性／60代／協和・太田）
- PR不足（男性／70代／大曲）
- 趣味がない（男性／80代以上／大曲）
- 勉強不足（男性／80代以上／中仙）
- 見学可能なのか分からない（男性／60代／大曲）

【問4】文化財を保存し、活用する取り組みについてどう思いますか。

- 全体では、「重要である」と「どちらかと言えば重要である」を合わせた割合は91.0%となっており、程度を問わず重要であると回答の方が9割を超えている。
- 年代別で見ると、「重要である」と「どちらかと言えば重要である」を合わせた割合は、50代と80代でやや低くなっているが、他の年代ではいずれも9割を超えており、全ての年代で重要度が高い結果となっている。
- 問2の関心度別で見ると、関心度が減少するにつれて、重要度も減少している。「重要である」と「どちらかと言えば重要である」を合わせた割合は、関心が「あまりない」と回答した方でも8割を超えているが、関心が「ない」と回答した方では大幅に減少し、半数程度となっている。

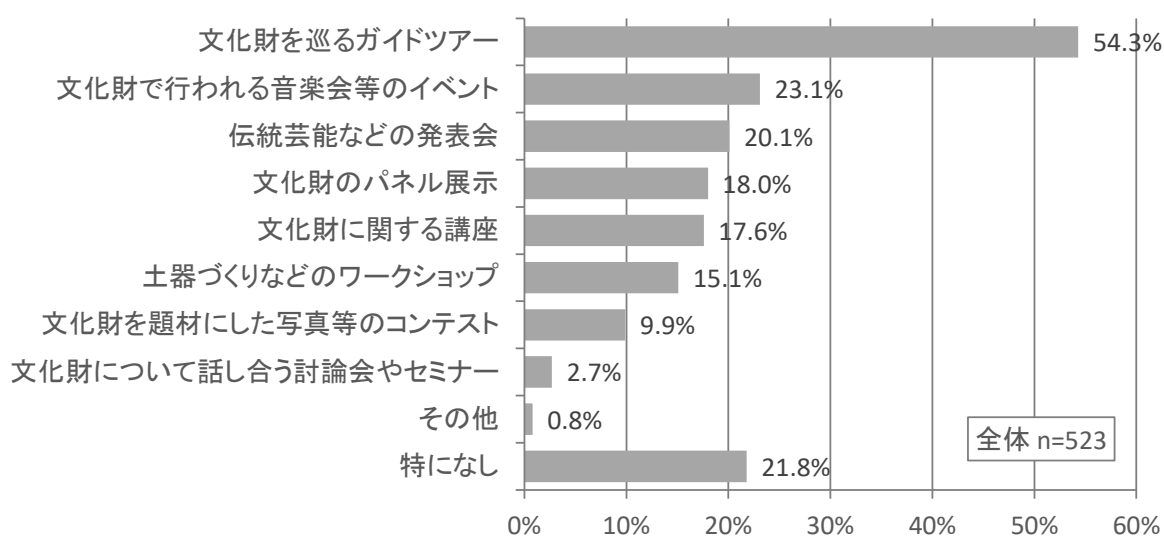


【問5】文化財に関連するイベント等の中で、参加してみたいと思うものは何ですか。

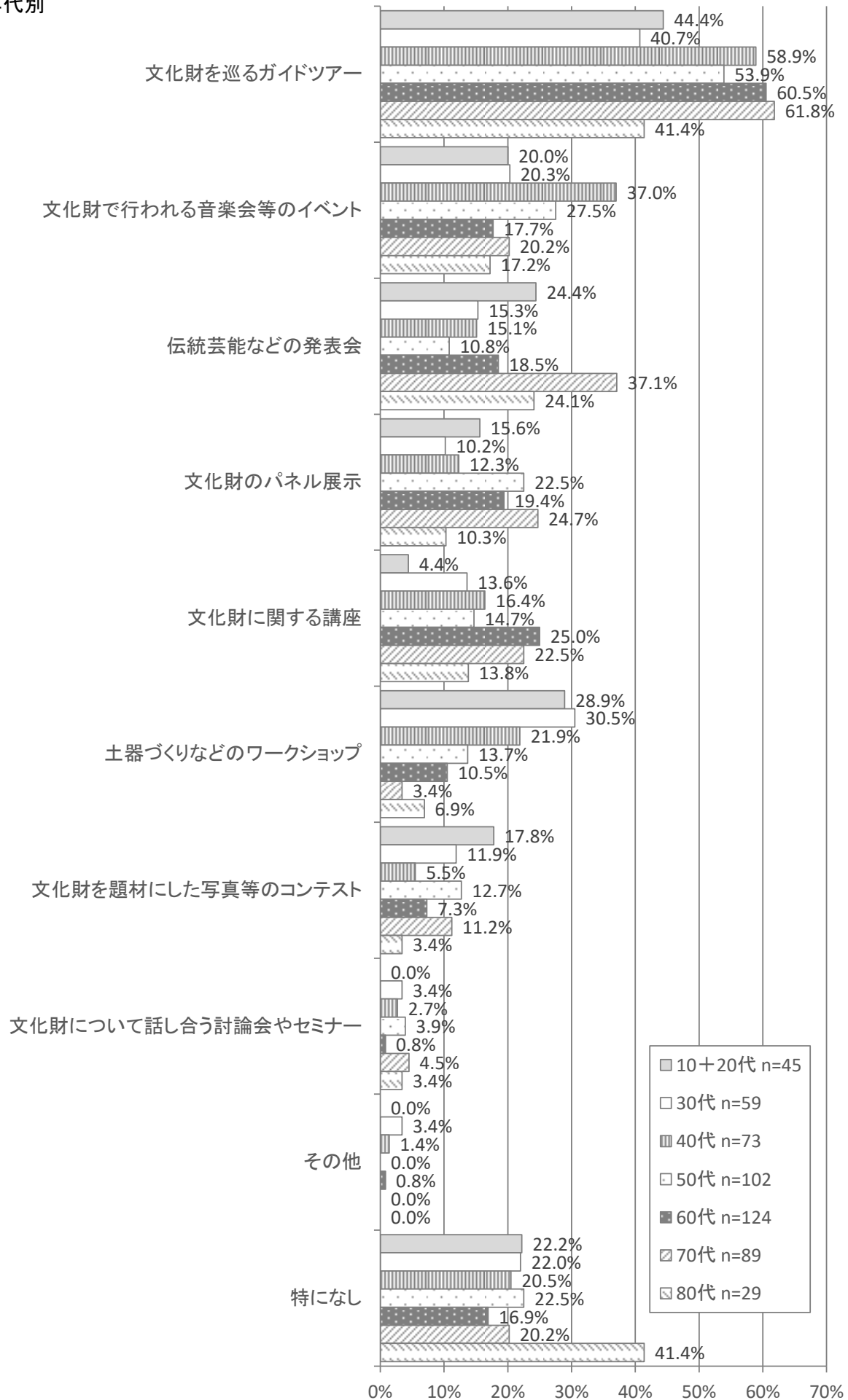
(3つまで)

- 全体では、「文化財を巡るガイドツアー」の割合が54.3%で突出しており、次いで「文化財で行われる音楽会等のイベント」が23.1%、「伝統芸能などの発表会」が20.1%となっている。
- 年代別で見ると、全ての年代で「文化財を巡るガイドツアー」の割合が最も高くなっている。また、「文化財を巡るツアー」「文化財に関する講座」の割合は年代が上がるにつれて増加する傾向となっており、逆に「土器づくりなどのワークショップ」の割合は年代が下がるにつれて増加する傾向となっている。
- 問2の関心度別、問4の重要度別で見ると、どちらも同様の傾向となっており、関心度・重要度が増加するにつれて回答の割合も増加する傾向となっている。ただし、「特になし」に関しては、逆に関心度・重要度が減少するにつれて回答の割合は増加している。

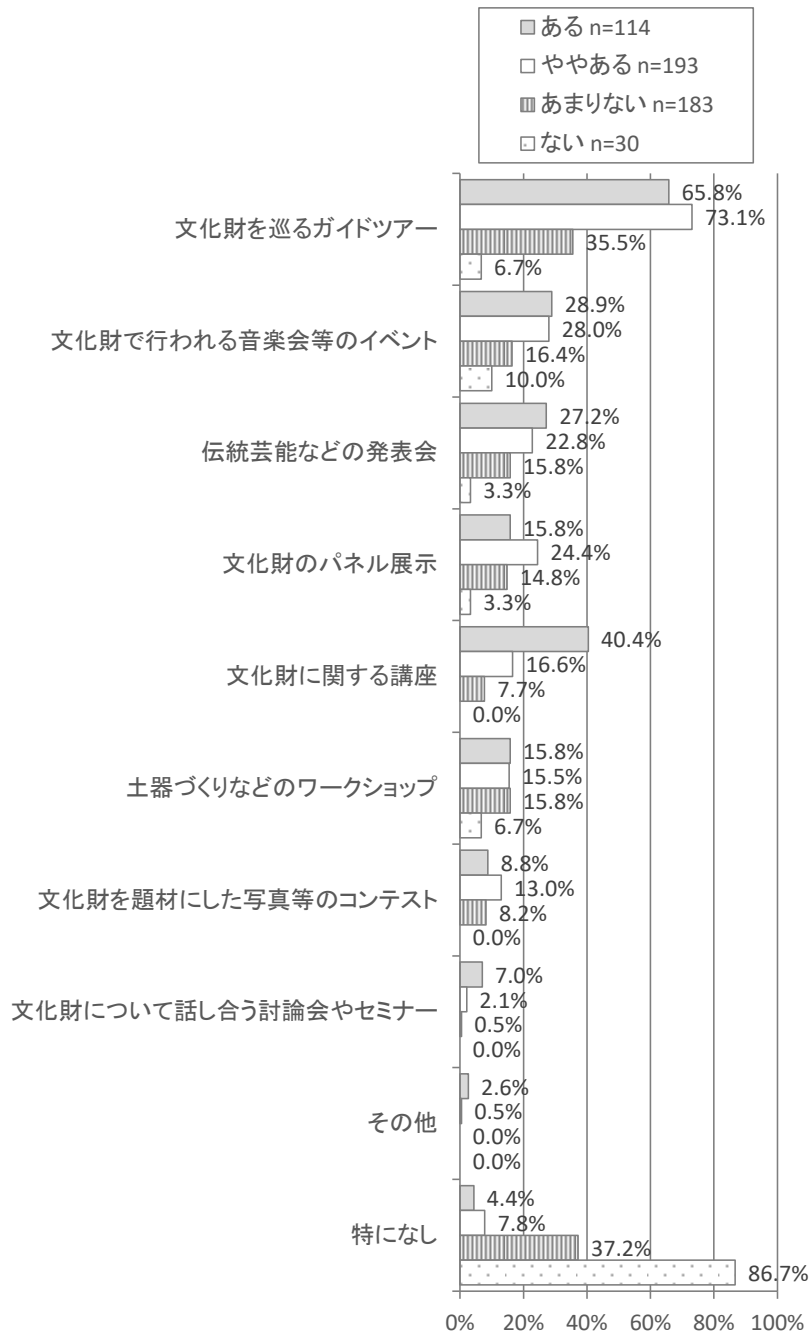
■全体



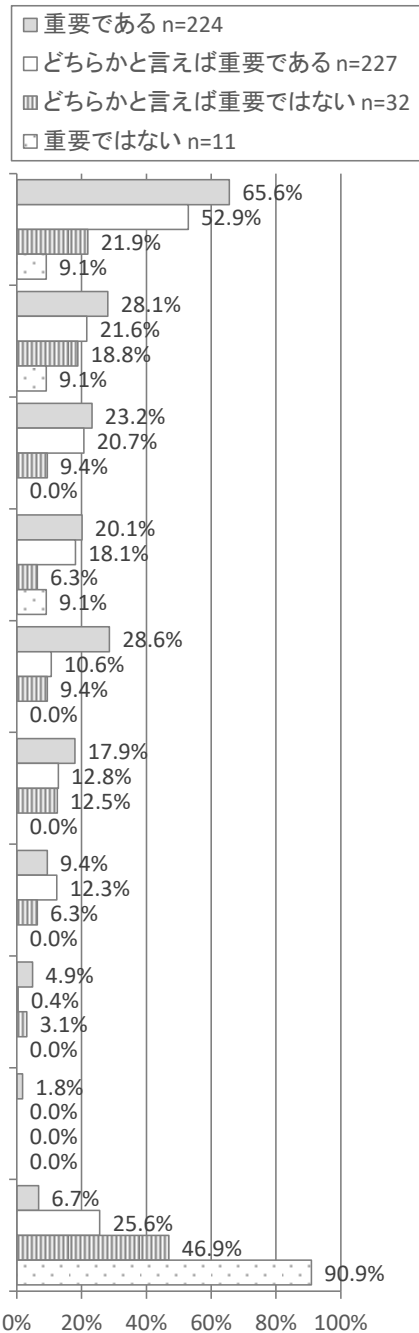
■年代別



■関心度（問２）別



■重要度（問４）別



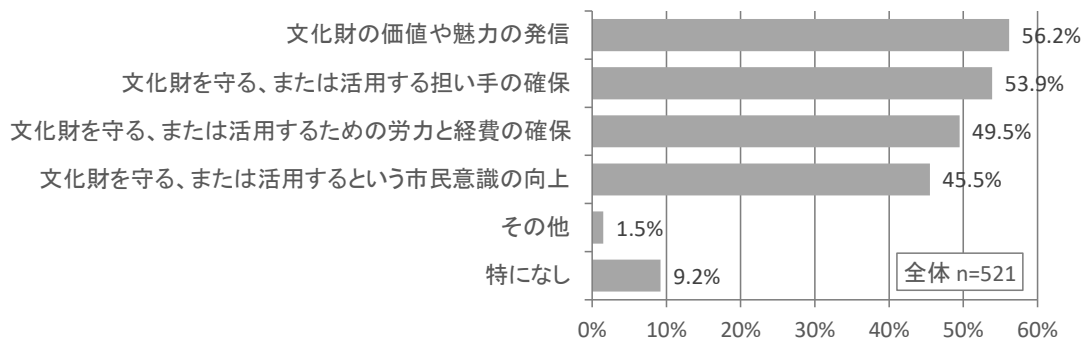
■その他の回答

- 文化財プロモーション（男性／40代／大曲）
- ガイドツアーの動画配信サービス（女性／60代／仙北）
- 文化財についてのパンフレットがあれば自分で行く（男性／30代／太田）
- 旧池田氏庭園ライトアップの様な写真に撮って後からも楽しめるようなイベント（女性／30代／南外）

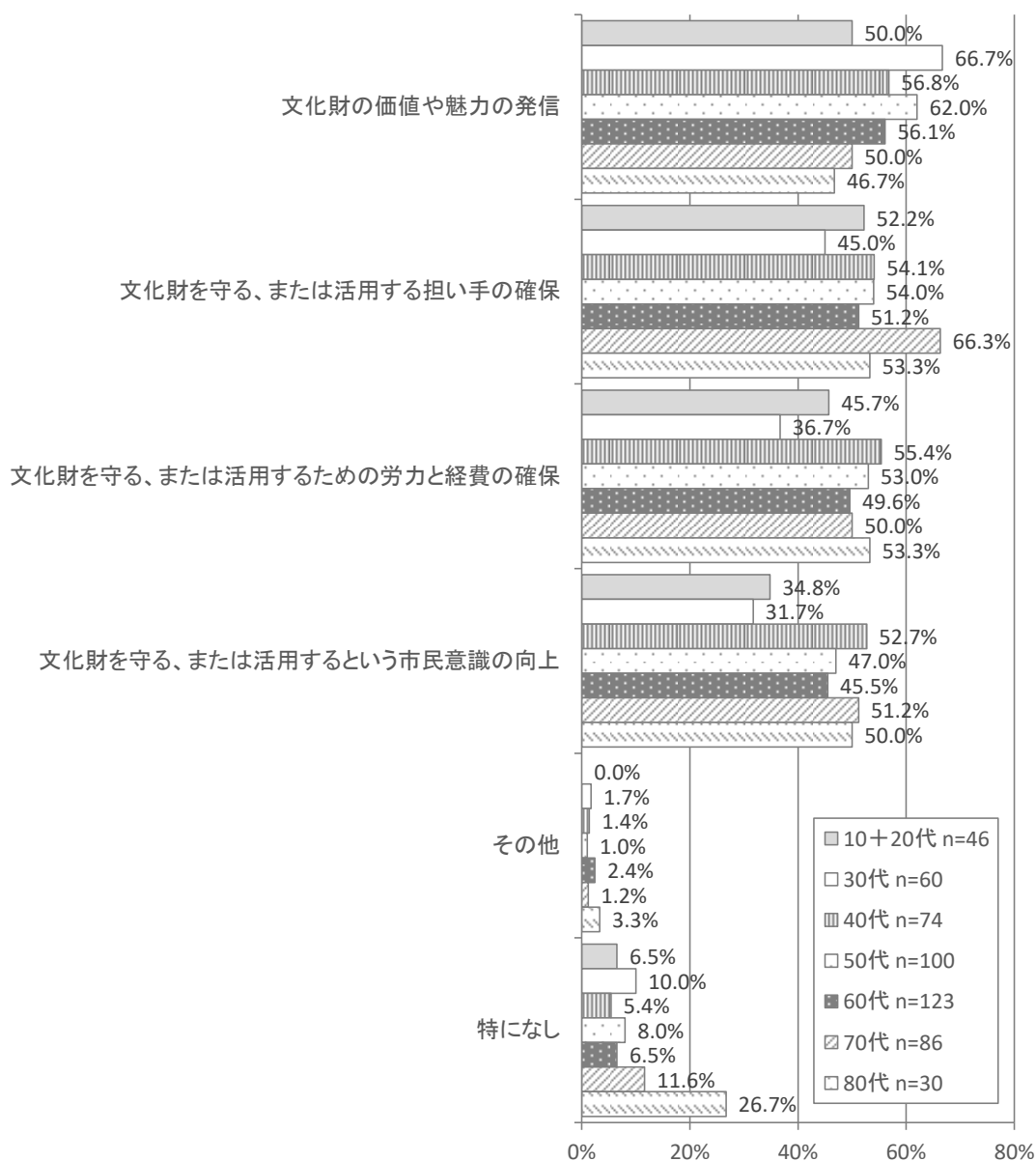
【問6】文化財を保存・活用することについて、課題だと思うことは何ですか。（複数回答可）

- 全体では、「文化財の価値や魅力の発信」の割合が56.2%で最も高くなっているが、4番目に割合の高い回答である「文化財を守る、または活用するという市民意識の向上」の45.5%と10.7ポイントの差となっており、突出して高い項目は見られなかった。
- 年代別で見ると、「文化財の価値や魅力の発信」は年代が上がるにつれて減少する傾向となっており、これ以外の項目では40代以上でやや割合が高くなっている。
- 問2の関心度別、問4の重要度別で見ると、どちらも同様の傾向となっており、関心度・重要度が増加するにつれて回答の割合も増加している。ただし、「特になし」に関しては、逆に関心度・重要度が減少するにつれて回答の割合は増加している。

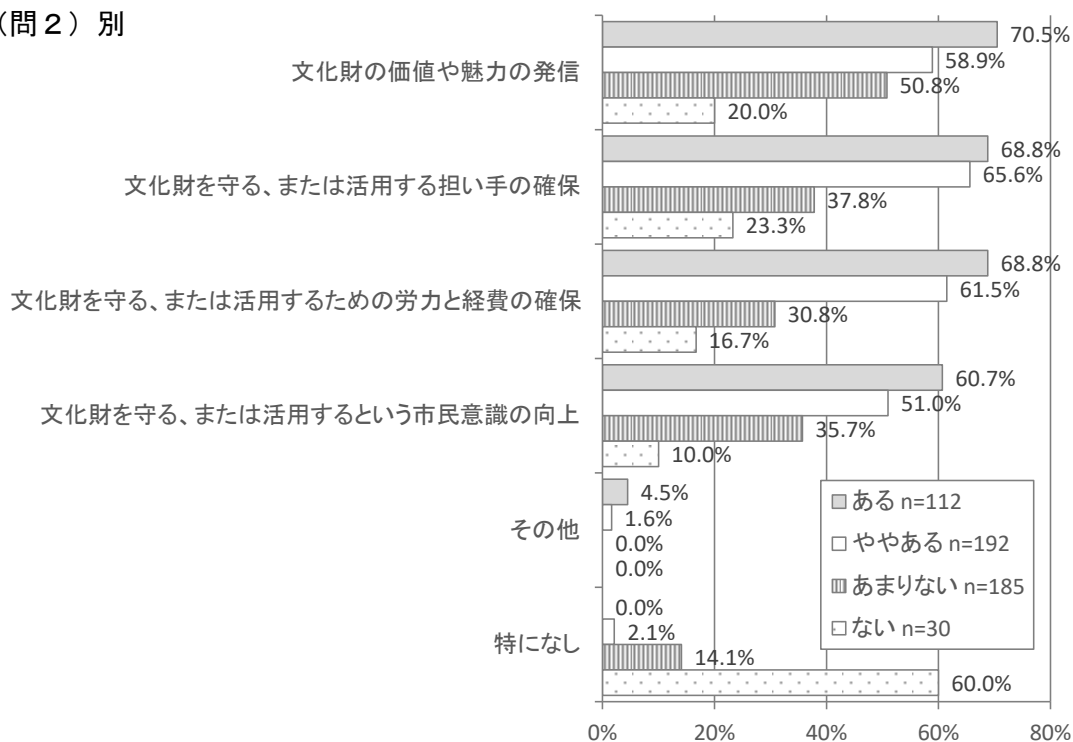
■全体



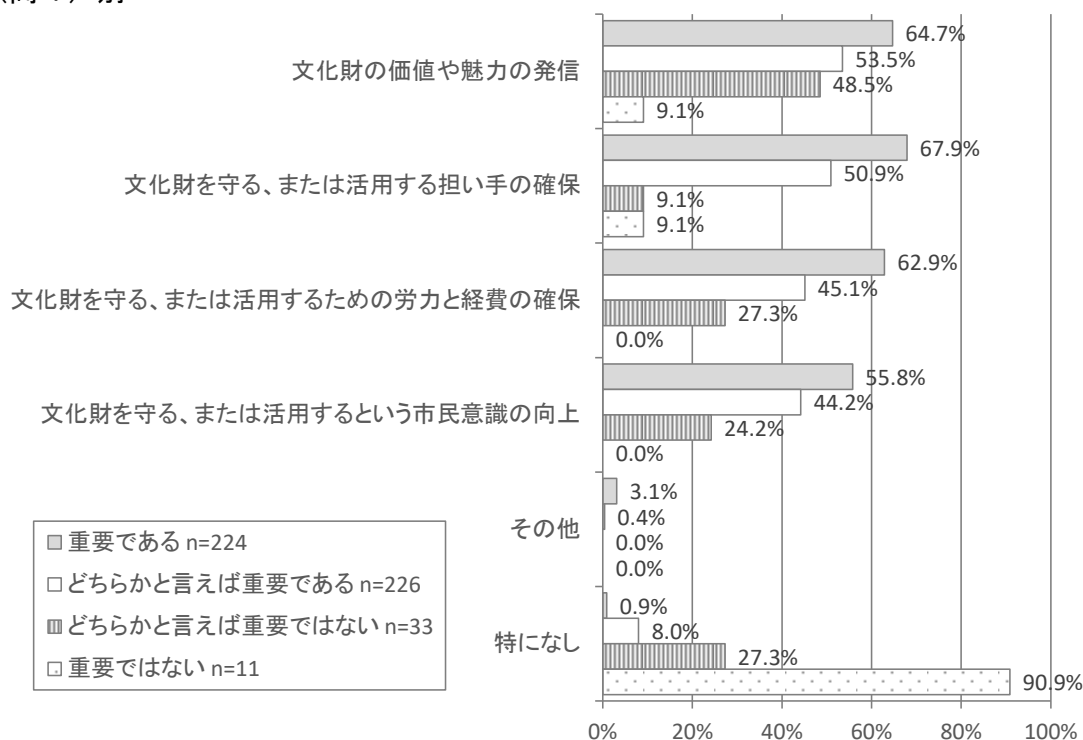
■年代別



■関心度（問2）別



■重要度（問4）別



■その他の回答

- 大仙地域の歴史を見つめなおすところから（男性／40代／大曲）
- 指定文化財が多すぎる。絞り込みが必要（女性／60代／大曲）
- 施設にたどり着くまでの道が地味。文化財について義務教育期間中に授業で教える。一か所に集めたパネル展示をして周知する。（女性／50代／大曲）
- おもしろさの周知。文化財を保護する価値があるのかをわかり易く伝えるべき。（女性／30代／西仙北）
- 若い人が文化財の存在を知ること（女性／60代／大曲）
- 地域に住む若い世代への周知、学校教育の場での学習機会（女性／60代／南外）

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 問1の文化財の認知度では、「旧池田氏庭園」や「払田柵跡」など、認知度が9割を超える文化財がある一方、「旧本郷家住宅」や「秋田南外の仕事着」など、認知度が3割を下回る文化財も多くある。また、見学したことがあるかについては、認知度が8割を超える文化財でも「見学したことがある」の割合は5割程度またはそれ以下となっており、認知度に比べ全体的に割合が低くなっていることから、文化財を知ってはいるが、見学したことはないと回答した方が多くいる結果となっている。

文化財を保存・活用する上で課題となっている担い手の確保、市民意識の向上を図る上で、文化財へ関心を持っていただくことは、その解決に向けた第一歩と言えることから、文化財へ関心を持ってもらうためには、まずはどのような文化財があり、どのような歴史などがあるのか、文化財そのものの認知度向上と、さらに、実際に訪れていただくことで文化財を身近に感じていただくことが重要であると考えます。そのためには、文化財に関する情報などの魅力発信に加え、より多くの方から見学していただくため、見学に関する情報発信の強化や様々な媒体を活用した情報発信が必要である。

- 問2の文化財への関心度では、「ある」または「ややある」と回答した方の割合は58.0%となっており、関心のある方が6割近くを占めている。また、問4の文化財を保存し活用する取組の重要度では、「重要である」または「どちらかと言えば重要である」と回答した方の割合は91.0%となっている。さらに、問2の文化財への関心度別で「ない」または「あまりない」と回答した方が、「重要である」または「どちらかと言えば重要である」と回答した割合は78.8%となっており、文化財に関心のない方でも、文化財の保存・活用に関する取組は重要であるとの認識を持っていただいているものと推察する。
- 問3の関心がない理由については、「自分の生活に関わりがないから」の割合が33.3%で最も高くなっているが、これ以外の「歴史をよく知らないから」「どのような価値があるのかわからないから」「魅力を感じないから」は、2割前後で同程度となっている。また、問6の文化財を保存・活用することについて課題だと思うことに対する回答では、突出している項目は見られないものの、「文化財の価値や魅力の発信」の割合が最も高い結果となっており、関心の有無に関わらず、文化財に対してより関心を持っていただくためには、文化財の価値や魅力、歴史などの情報を発信していくことが重要となっている。
- 問5の参加してみたいと思う文化財に関連するイベント等については、「文化財を巡るガイドツアー」が54.3%で突出しているが、年代別で違いが見られることから、文化財の魅力などを発信する手法の一つとしても、この結果を参考とし、年代に応じたイベント等の開催などにより、文化財に関心がない方でも見学に足を運んでいただけるようなきっかけづくりについて検討していきたい。
- 問6の文化財を保存・活用することについて課題だと思うことに対する回答では、突出した回答は見られなかったことから、全ての項目が重要であると認識されているものと推察するが、前述のとおり、まずは文化財に関心を持っていただくことが重要と考えることから、問5のイベント等を通じて文化財を身近に感じていただくなど、担い手の確保や市民意識の向上につながる効果的な取組について検討していく。

3. 1. 3 市民のデジタル活用について

(総務部 D X 推進課)

- ◆ 調査目的： スマートフォンの普及や情報通信技術の向上、インターネットサービスの充実などによる近年のデジタル化の進展に加え、このたびの新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、移動しなくても会議を行えるオンライン会議や、自宅に居ても働けるテレワークなど、デジタルを活用した新しい生活スタイルが急速に普及している。

こうした中、市では、人口減少社会にあっても質の高い行政サービスを継続するため、「行かなくて済む『市役所』」の実現を目指し、行政事務の効率化を図りながら、行政手続きのデジタル化など I C T（情報通信技術）の効果的な導入を推進・検討している。

一方で、パソコンやインターネット等の利用の有無により発生する情報格差が課題となっており、全ての市民の皆さんが等しくデジタル化の恩恵を受けられる「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」の実現に向けた対策が必要となっている。

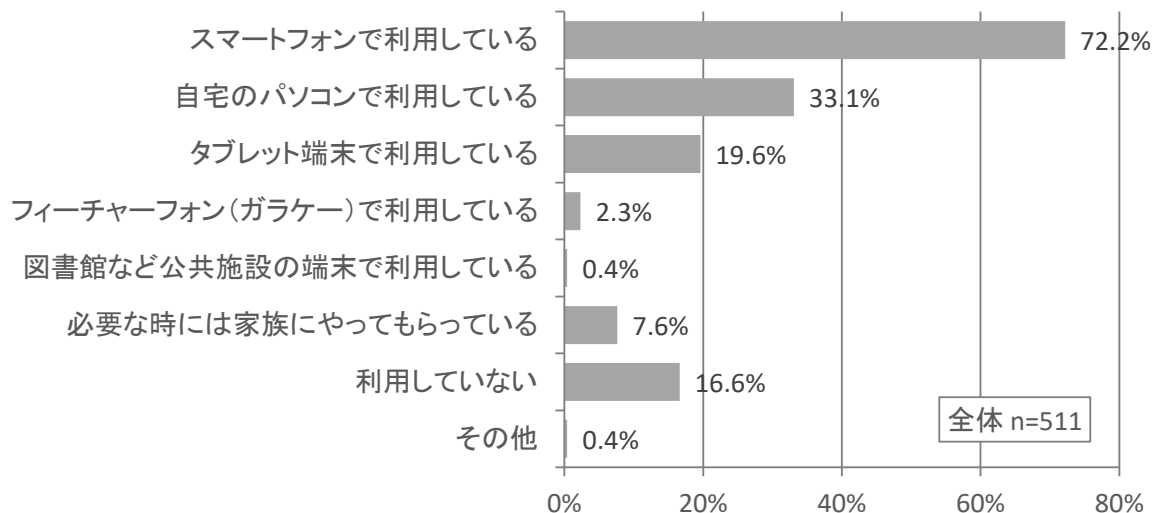
本調査では、インターネットの活用状況や今後の利用の意向を伺い、市のデジタル化を推進していく上での参考とする。

【問 1】あなたは、仕事以外の生活の中でインターネットを利用していますか。（複数回答可）

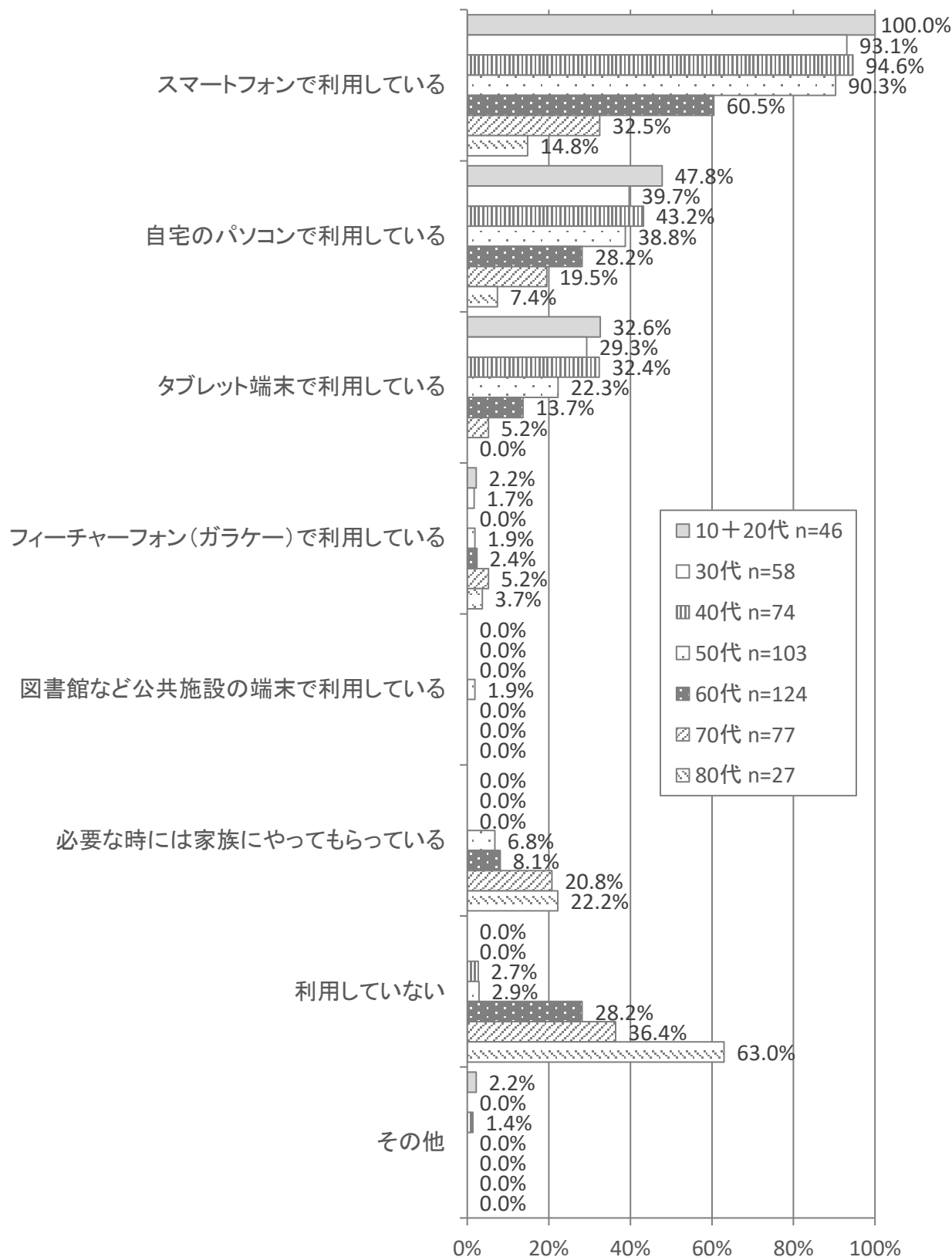
- 全体では、「スマートフォンで利用している」の割合が 72.2% で突出しており、7 割を超えている。「必要な時には家族にやってもらっている」は 7.6%、「利用していない」は 16.6% となっている。
- 年代別で見ると、60 代以下では「スマートフォンで利用している」の割合が最も高くなっており、50 代以下では 9 割を超え、10 代と 20 代を合わせた年代では 100% となっている。70 代以上では「利用していない」の割合が最も高くなっており、80 代では 6 割を超えている。

「スマートフォンで利用している」「自宅のパソコンで利用している」「タブレット端末で利用している」の割合はいずれも年代が上がるにつれて減少する傾向となっており、「必要な時には家族にやってもらっている」「利用していない」の割合は逆に年代が上がるにつれて増加している。

■全体



■年代別



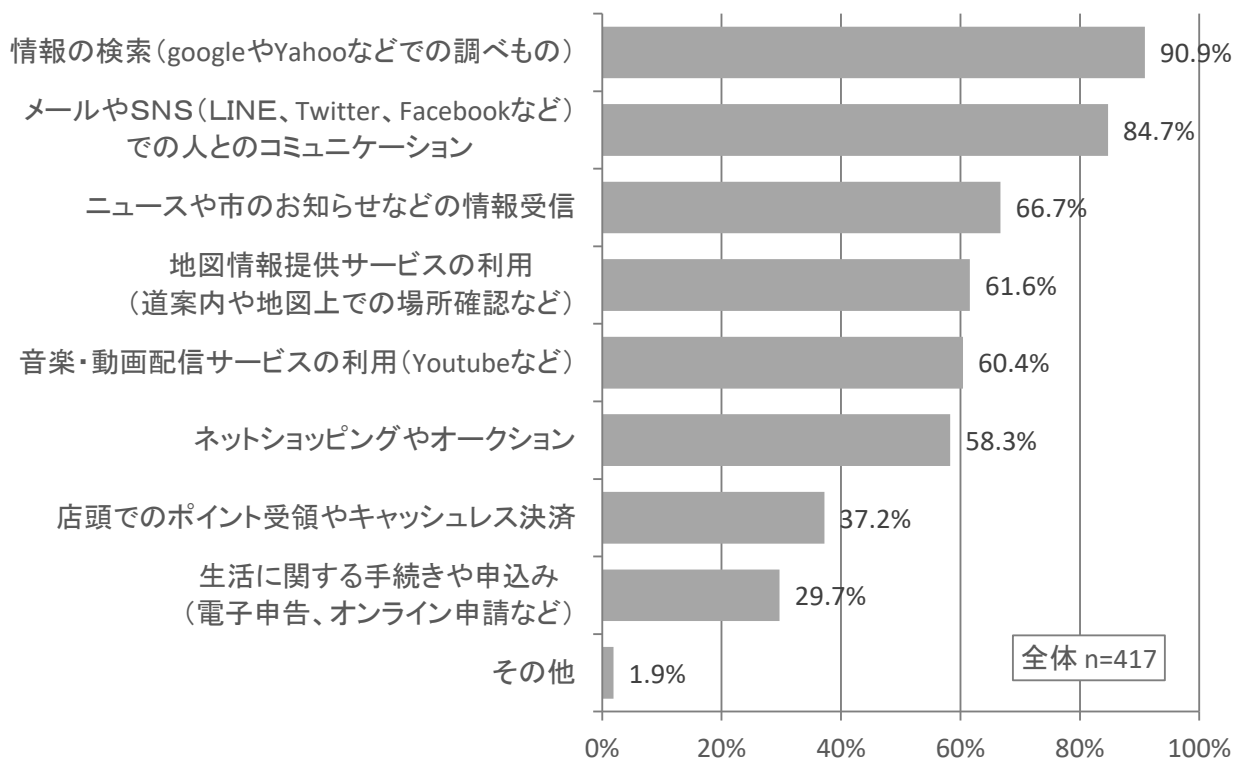
■その他の回答

- PS4 (男性/20代/西仙北)

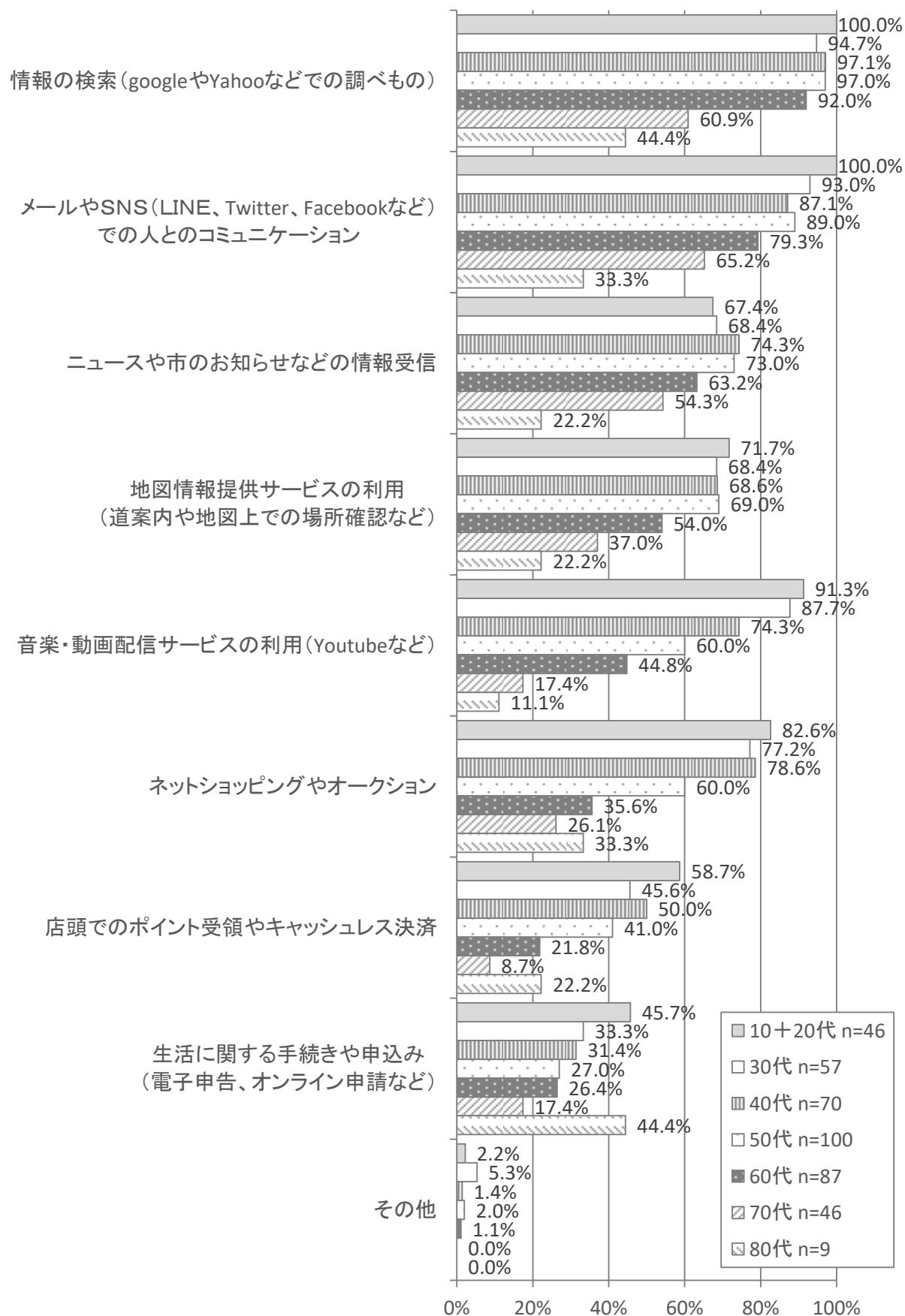
【問２－１】現在、どのような目的で利用していますか。（複数回答可）
（問１で「１」～「６」を１つでも選択した方）

- 全体では、「情報の検索（google や Yahoo などでの調べもの）」の割合が 90.9%で最も高く、次いで「メールや SNS（LINE、Twitter、Facebook など）での人とのコミュニケーション」が 84.7%となっており、上位２項目の回答が突出している。
- 年代別で見ると、概ね全ての項目で年代が上がるにつれて割合は減少する傾向となっている。

■全体



■年代別



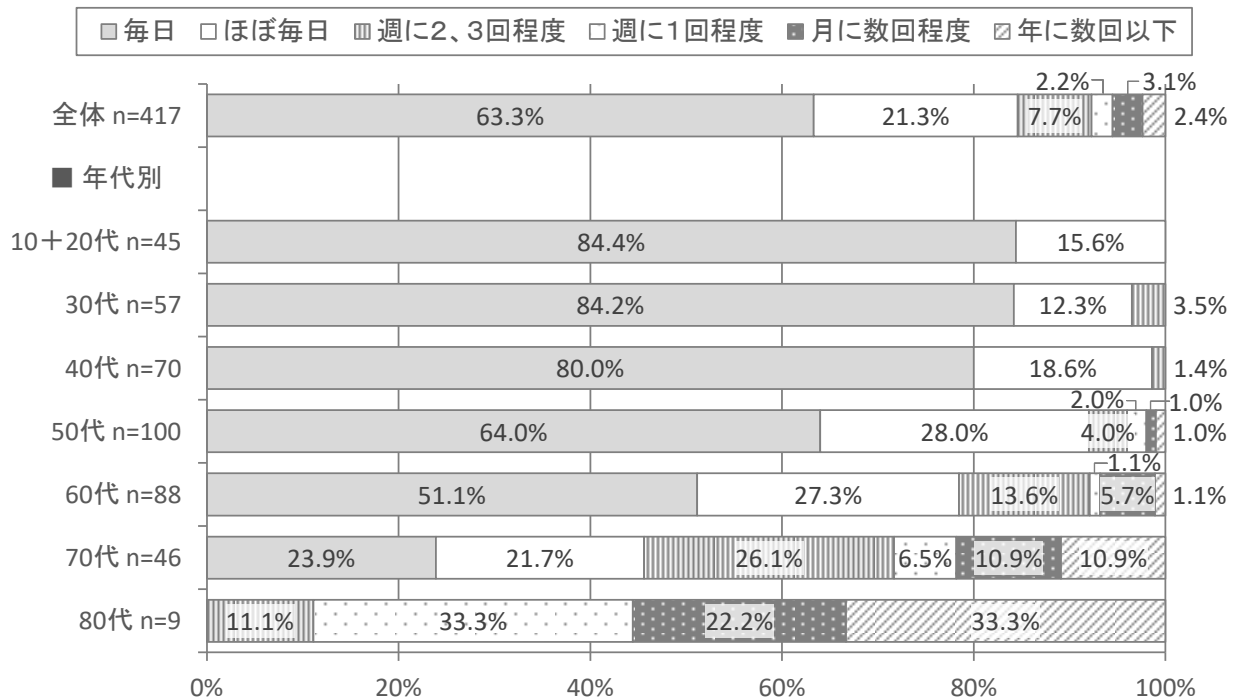
■その他の回答

- 電子書籍（女性／30代／大曲）
- ネットバンキング（女性／40代／大曲）
- ゲーム（男性／30代／協和、性別不明／20代／中仙）

【問2-2】どの程度の頻度で利用していますか。

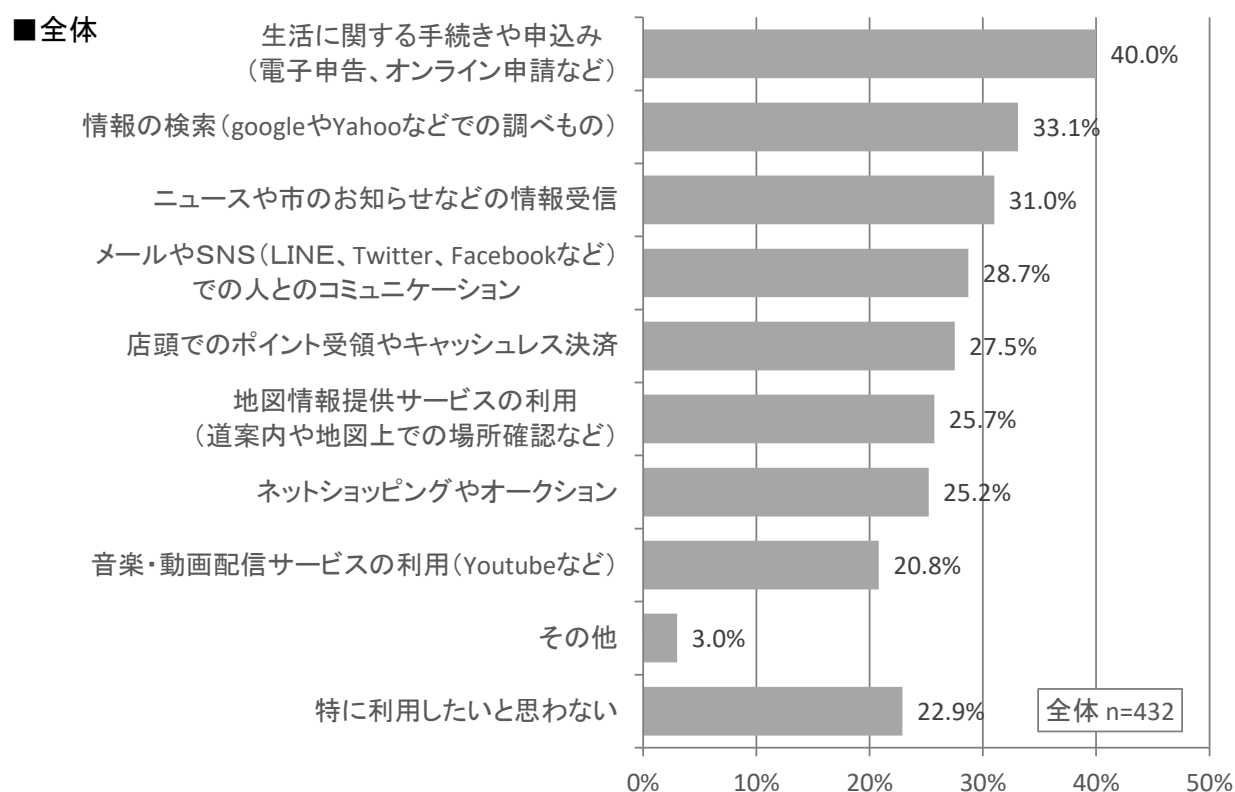
（問1で「1」～「6」を1つでも選択した方）

- 全体では、「毎日」の割合が63.3%で最も高く、「ほぼ毎日」を合わせると84.6%、「週に1回程度」まで合わせると94.5%となっている。
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれて、利用頻度が低くなっている。「毎日」と「ほぼ毎日」を合わせた割合は、50代以下で9割を超えているが、70代では45.6%で半数を下回っており、80代では0%となっている。「週に1回程度」以上の利用頻度を見ると、70代では78.2%で8割近くを占めているが、80代では44.4%となっており、半数を下回っている。

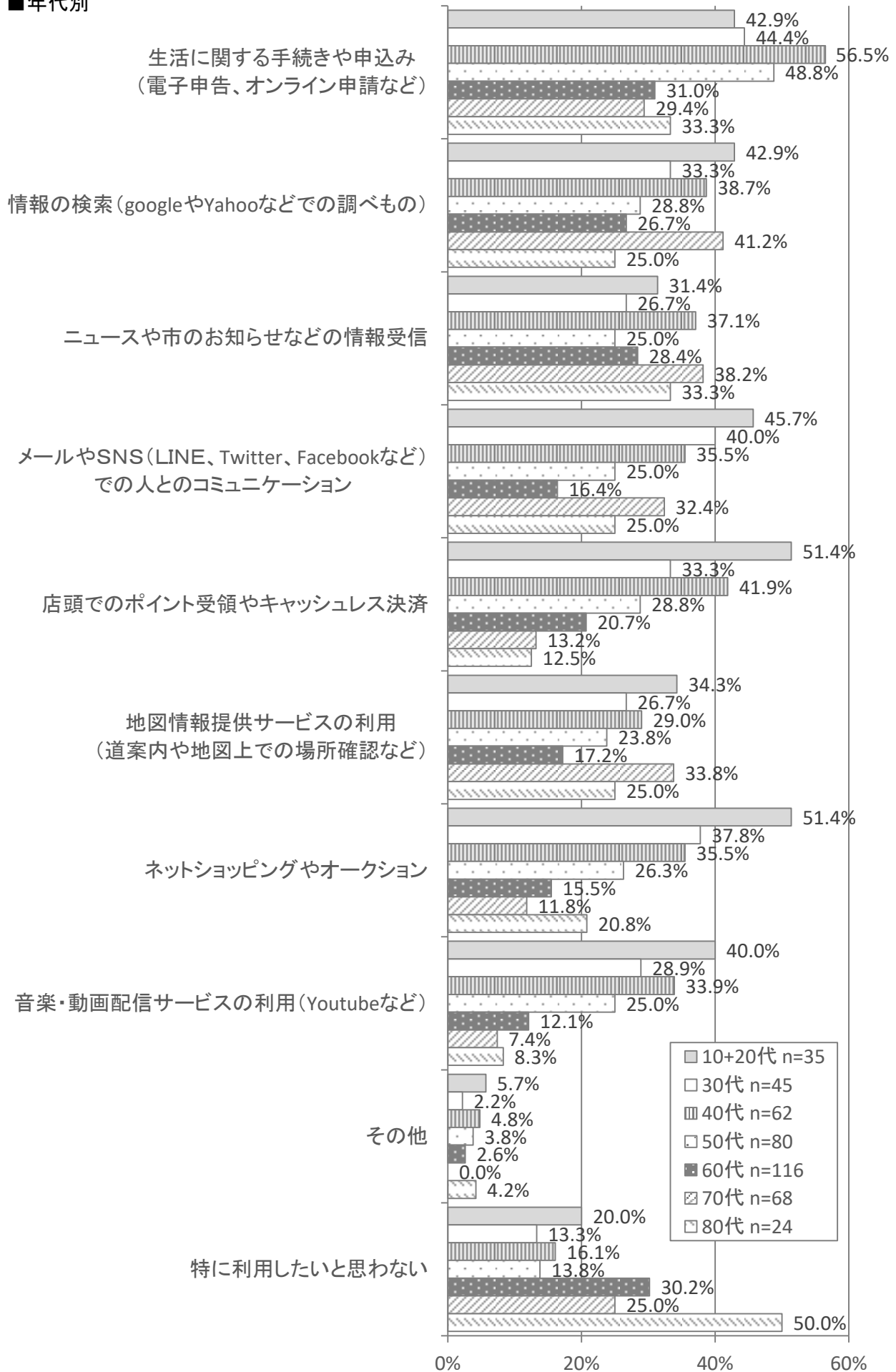


【問3】インターネットを「利用している方」は今後新たに利用してみたいことは何ですか。
「利用していない方」は今後どのようなことに利用してみたいですか。（複数回答可）

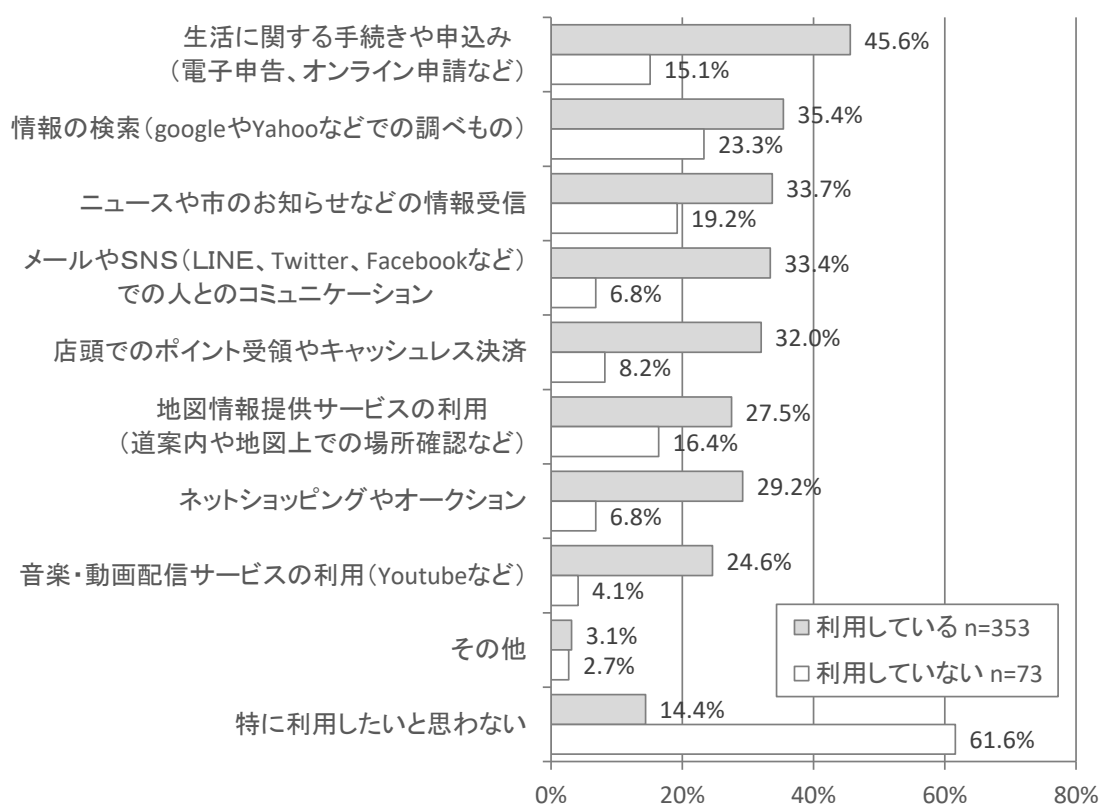
- 全体では、「生活に関する手続きや申込み（電子申請、オンライン申請など）」の割合が40.0%で最も高く、次いで「情報の検索（google や Yahoo などでの調べもの）」が33.1%、「ニュースや市のお知らせなどの情報受信」が31.0%となっている。
- 年代別で見ると、10代と20代を合わせた年代では「店頭でのポイント受領やキャッシュレス決済」と「ネットショッピングやオークション」の割合が同率で最も高くなっており、30～60代は「生活に関する手続きや申込み（電子申請、オンライン申請など）」、70代は「情報の検索（google や Yahoo などでの調べもの）」の割合が最も高くなっている。80代では「特に利用したいと思わない」の割合が最も高くなっている。
また、「店頭でのポイント受領やキャッシュレス決済」「ネットショッピングやオークション」「音楽・動画配信サービスの利用（Youtube など）」の割合は、年代が上がるにつれて減少する傾向となっており、特に10代と20代を合わせた年代で突出しており、60代以上で大きく減少している。
60代以上は、他の年代に比べ回答割合が低い傾向にあるが、「ニュースや市のお知らせなどの情報受信」については、年代を問わず3割前後となっている。「特に利用したいと思わない」については60代以上で大きく増加しており、80代では50.0%となっている。
- インターネットの利用の有無別で見ると、利用している方は全体と同様の傾向となっており、「生活に関する手続きや申込み（電子申請、オンライン申請など）」の割合が45.6%で最も高くなっている。利用していない方は「特に利用したいと思わない」の割合が61.6%で最も高くなっており、次いで「情報の検索（google や Yahoo などでの調べもの）」が23.3%となっている。



■年代別



■インターネットの利用の有無別



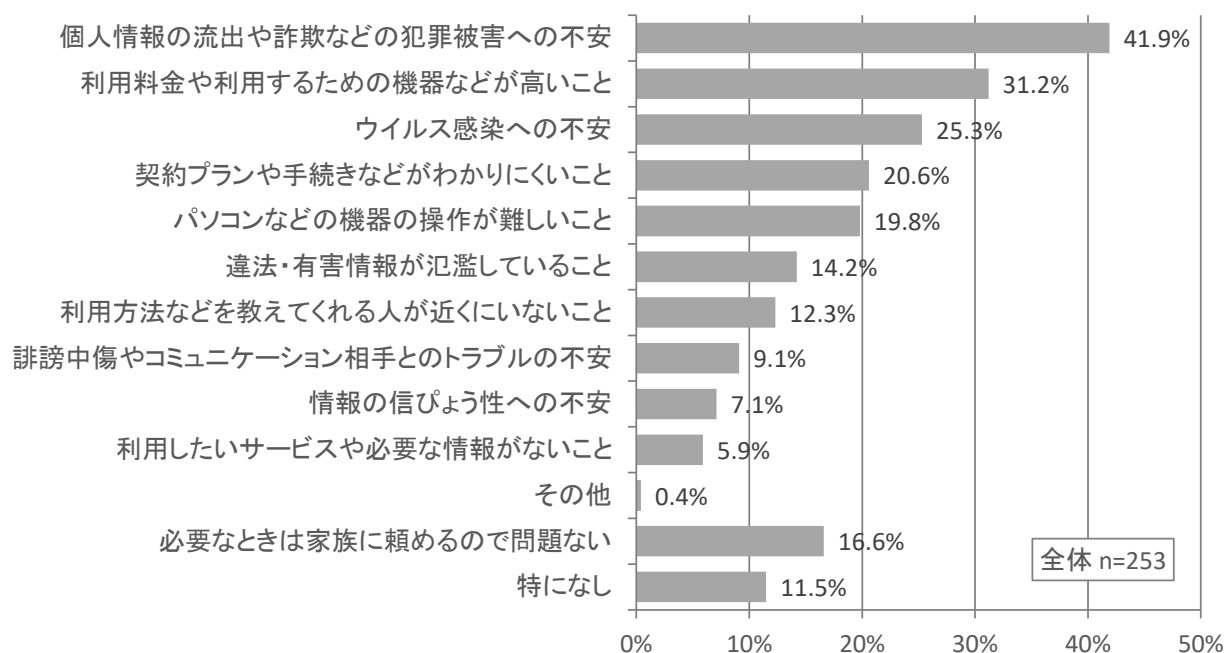
■その他の回答

- 大仙市の若い人達が紹介する地元おすすめ情報などの動画配信サービス (女性/60代/仙北)
- 学ぶことに利用したい (女性/40代/中仙)

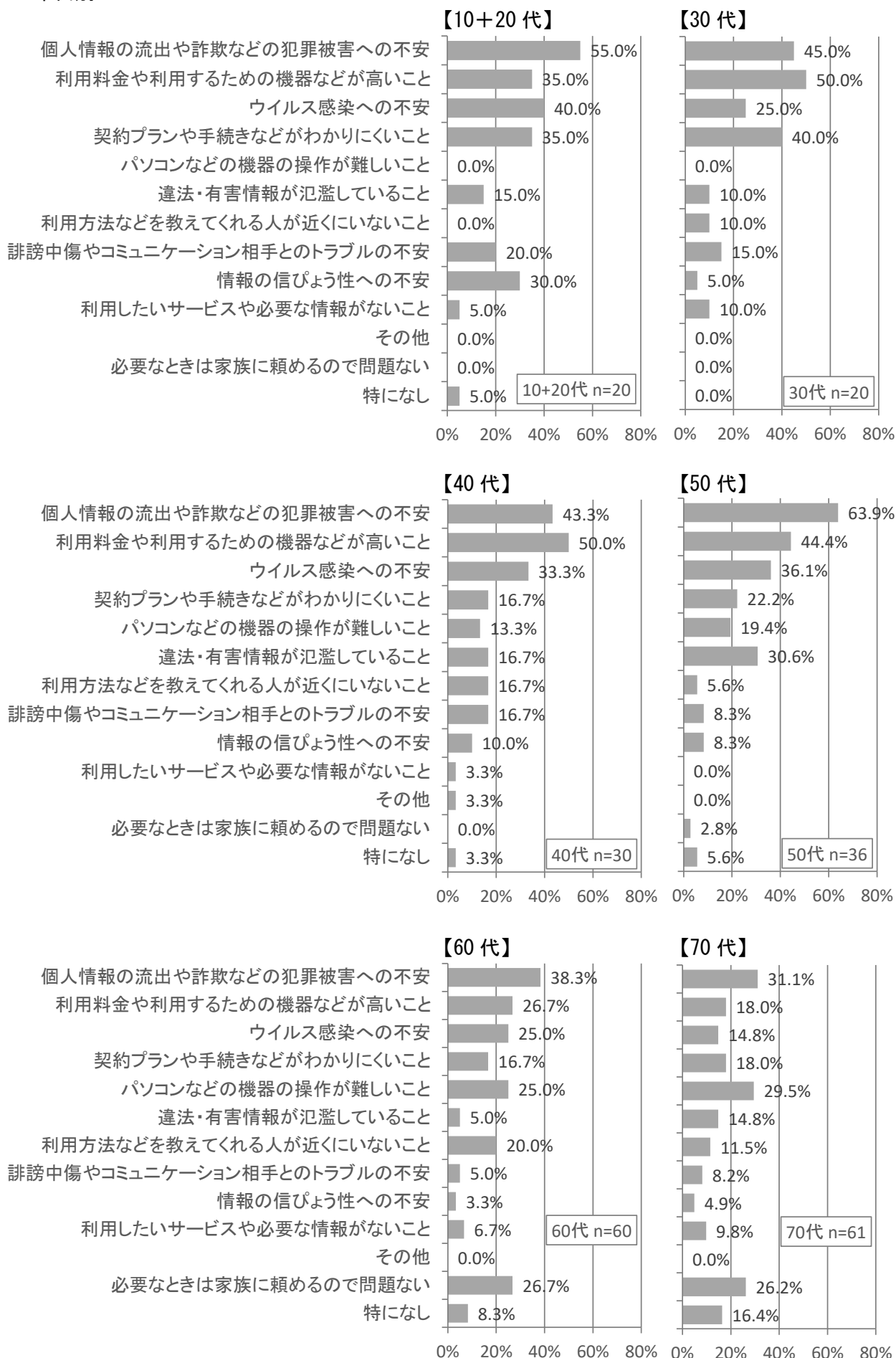
【問4】インターネットを「利用していない方」はその理由は何ですか。
「利用している方」は利用していて不安や不満なことはありますか。（3つまで）

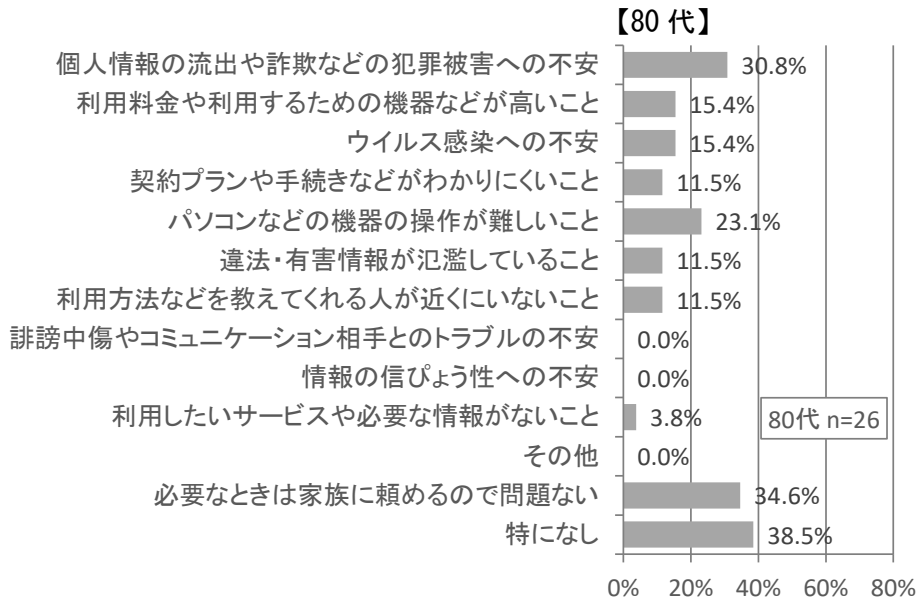
- 全体では、「個人情報の流出や詐欺などの犯罪被害への不安」の割合が41.9%で最も高く、次いで「利用料金や利用するための機器などが高いこと」が31.2%、「ウイルス感染への不安」が25.3%となっている。
- 年代別で見ると、30～40代は「利用料金や利用するための機器などが高いこと」、80代は「特になし」、それ以外の年代では「個人情報の流出や詐欺などの犯罪被害への不安」の割合が最も高くなっている。
- インターネットの利用の有無別で見ると、利用している方は「個人情報の流出や詐欺などの犯罪被害への不安」の割合が52.1%で最も高くなっている。
利用していない方は「パソコンなどの機器の操作が難しいこと」の割合が30.8%で最も高く、次いで「必要なときは家族に頼めるので問題ない」が29.5%、「特になし」が24.4%となっている。
- 65歳以上でインターネットを利用していない方を見ると、「パソコンなどの機器の操作が難しいこと」の割合が29.7%で最も高くなっており、次いで「必要なときは家族に頼めるので問題ない」と「特になし」が同率で高くなっている。また、「利用方法などを教えてくれる人が近くにいないこと」や「利用したいサービスや必要な情報がないこと」の割合も全体の傾向と比べると比較的高くなっている。
さらに、65歳以上の方の家族構成別に分類した回答数を見ると、二世帯以上の世帯では「必要なときは家族に頼めるので問題ない」の回答数が多くっており、単身世帯では「利用方法などを教えてくれる人が近くにいないこと」の回答数が多くになっている。一方で、単身世帯と夫婦世帯では「特になし」の回答数も多くなっているが、「パソコンなどの機器の操作が難しいこと」は家族構成を問わず回答数が多くなっている。

■全体

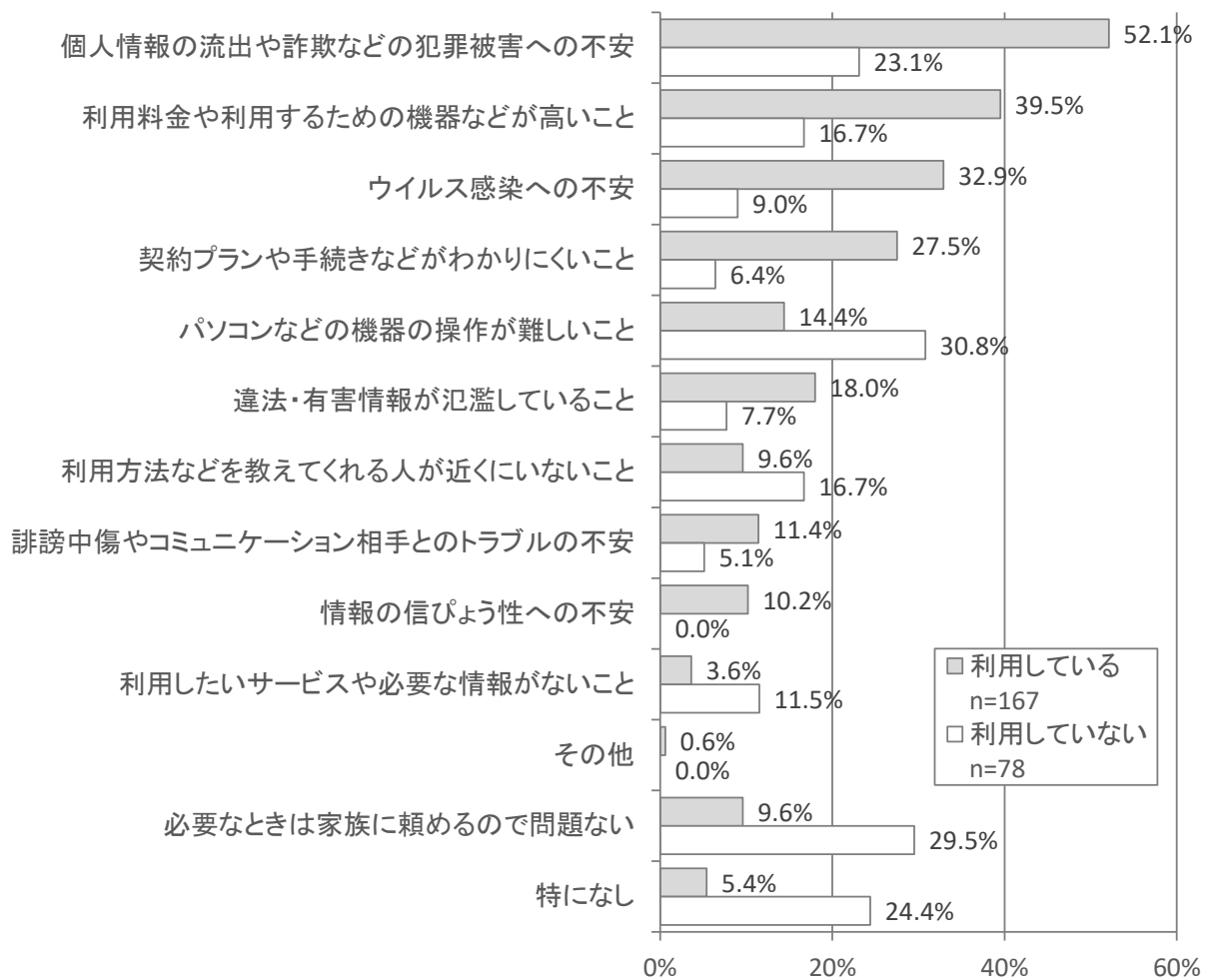


■年代別

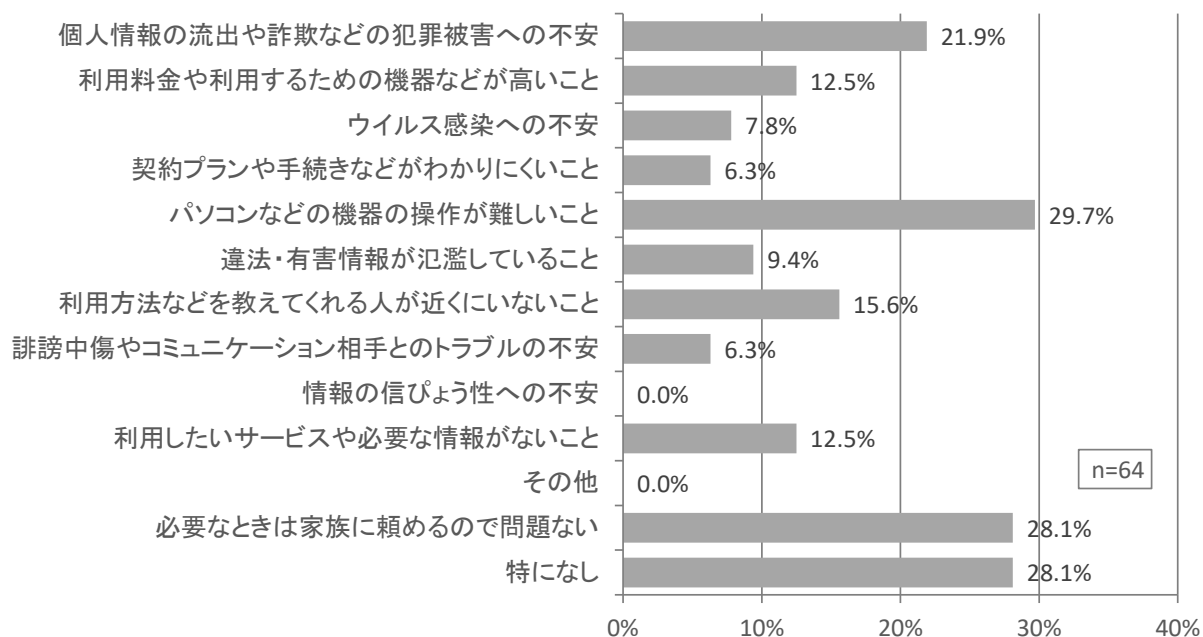




■インターネットの利用の有無別



■65 歳以上でインターネットを利用していない方



家族構成別（65 歳以上でインターネットを利用していない方）の回答数

	単身世帯 n=9	夫婦世帯 n=24	二世世代世帯 (親と同居) n=6	二世世代世帯 (子と同居) n=19	三世代以上の世帯 n=6
個人情報の流出や詐欺などの犯罪被害への不安	3	5	1	4	1
利用料金や利用するための機器などが高いこと	1	3	1	3	
ウイルス感染への不安	1	2	1	1	
契約プランや手続きなどがわかりにくいこと			1	3	
パソコンなどの機器の操作が難しいこと	1	9	1	6	2
違法・有害情報が氾濫していること	1	2	1	1	1
利用方法などを教えてくれる人が近くにいないこと	4	4	1	1	
誹謗中傷やコミュニケーション相手とのトラブルの不安		1		3	
情報の信ぴょう性への不安					
利用したいサービスや必要な情報がないこと	1	5		1	1
その他					
必要なときは家族に頼めるので問題ない	1	2	3	7	5
特になし	4	8	1	4	1

■その他の回答

- 通信速度が遅いこと。光回線でも遅い。（男性／40代／太田）

◆調査結果まとめ及び今後の方針

- 問1の仕事以外の生活におけるインターネットの利用状況については、「スマートフォンで利用している」の割合が72.2%で最も高くなっている。「利用していない」の割合は16.6%となっているため、何らかの方法で利用している方の割合は83.4%となっており、8割を超える方が生活の中でインターネットを利用していると回答している。年代別で見ると、「利用していない」の割合は、30代以下では0%、40代と50代では3%を下回っていることから、50代以下ではほとんどの方が利用している結果となっている。さらに、問2-2のインターネットの利用頻度においては、50代以下の「毎日」と「ほぼ毎日」を合わせた割合が9割を超えており、50代以下ではインターネットが生活に密着した形で利用されていることが伺える。

一方、60代以上では、「利用していない」の割合が年代が上がるにつれて高くなっており、逆に利用頻度は年代が上がるにつれて低くなっている。特に、80代では6割を超える方がインターネットを利用していないと回答している。

- 問3のインターネットを使って今後利用してみたいことについては、「生活に関する手続きや申込み」の割合が最も高いことから、問1、問2の結果を踏まえ、特に50代以下の方が多く利用したいと考えている行政手続きや申込みについて、積極的なオンライン化を検討する。
- 問4のインターネットを利用していない理由について、65歳以上でインターネットを利用していない方では、「必要なときは家族に頼めるので問題ない」の割合が28.1%となっており、行政手続き等についても、若い世代の家族に頼むことが想定される。そのため、若い世代が家族を支援しやすい環境を整えるためにも、紙での手続きや申込みに加え、オンライン化を検討していく。

そのほか、「パソコンなどの機器の操作が難しいこと」「個人情報の流出や詐欺などの犯罪被害への不安」「利用方法などを教えてくれる人が近くにいないこと」を不安要素として選択している方が多くいる。「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」の推進にあたり、インターネットの利用手段として最も多い「スマートフォン」の利用について、気軽に相談できる環境の整備や、利用する際の詐欺被害防止対策などの啓発を検討していく。また、行政手続きや申込みのオンライン化については、利用者目線で「わかりやすさ」に配慮しながら進めていく。

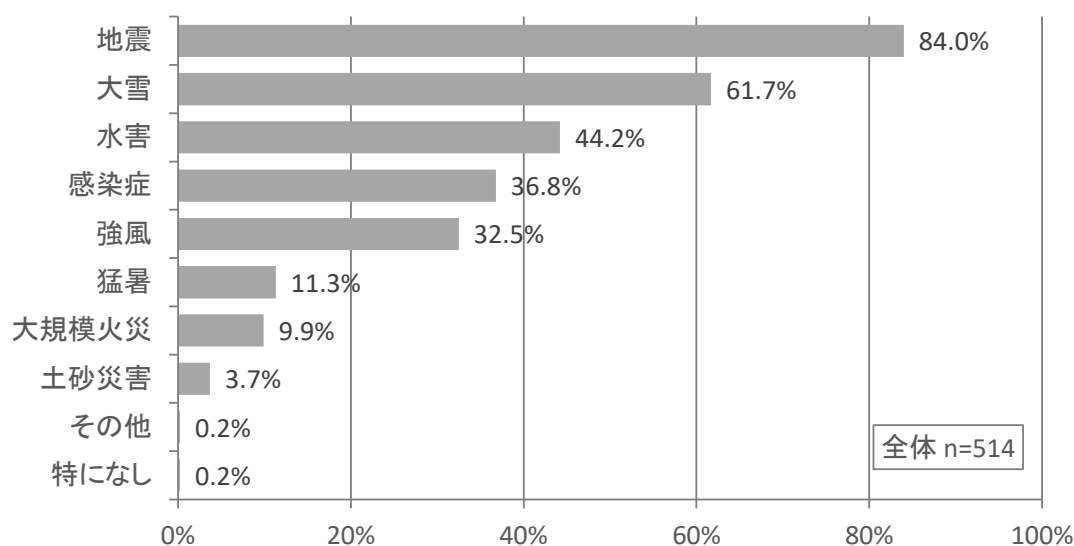
◆ 調査目的： 未曾有の被害をもたらした東日本大震災から10年が経過し、市民の皆さんの防災意識は、震災当時と比べると大きく高まってきているが、一方で、時の経過とともに記憶が風化し、防災意識が低下していくことが懸念されている。

また、大震災以降も全国各地で自然災害が頻発しており、いつ発生するかわからない災害に対して、自身や家族の身を守っていくためには、日頃の各家庭や地域における防災対策の重要性が認識されている。

本調査では、各家庭で行っている防災対策や備蓄の状況等について伺い、防災意識の向上を図っていくための参考とする。

【問1】生活の中で心配に思う災害は何ですか。（3つまで）

○ 「地震」の割合が84.0%で最も高く、次いで「大雪」が61.7%、「水害」が44.2%となっており、「感染症」「強風」と続いている。上位2項目の回答が突出しており、さらに「地震」が突出している。

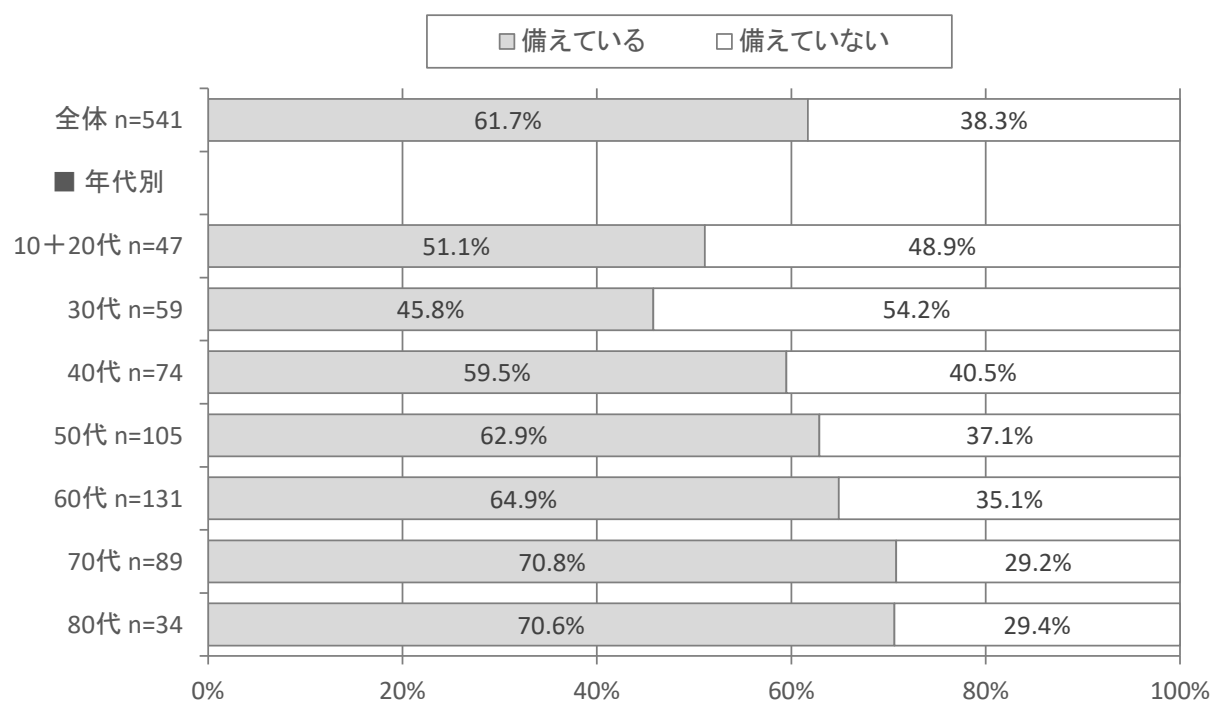


■ その他の回答

- 停電（男性／70代／大曲）

【問2】災害に対して各家庭で何か備えていることはありますか。

- 全体では、「備えている」の割合が 61.7%となっており、6割を超えている。
- 年代別で見ると、「備えている」の割合は、年代が上がるにつれて増加する傾向となっており、70代以上では7割を超えている。

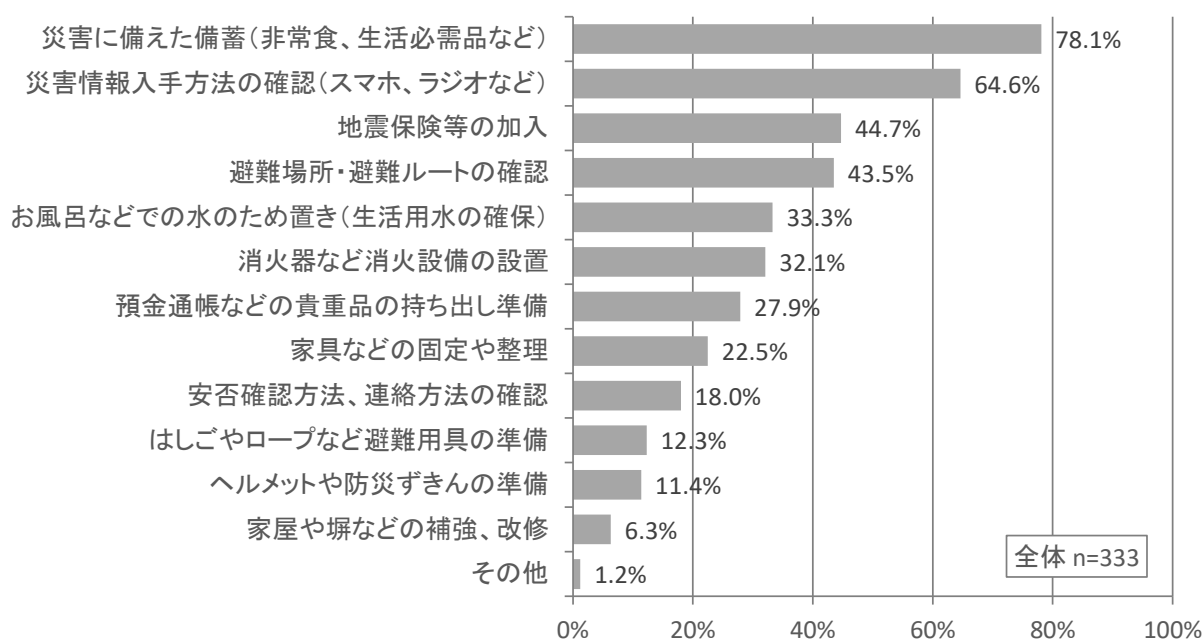


【問3】具体的にどのような備えをしていますか。（複数回答可）

（問2で「1. 備えている」と回答した方）

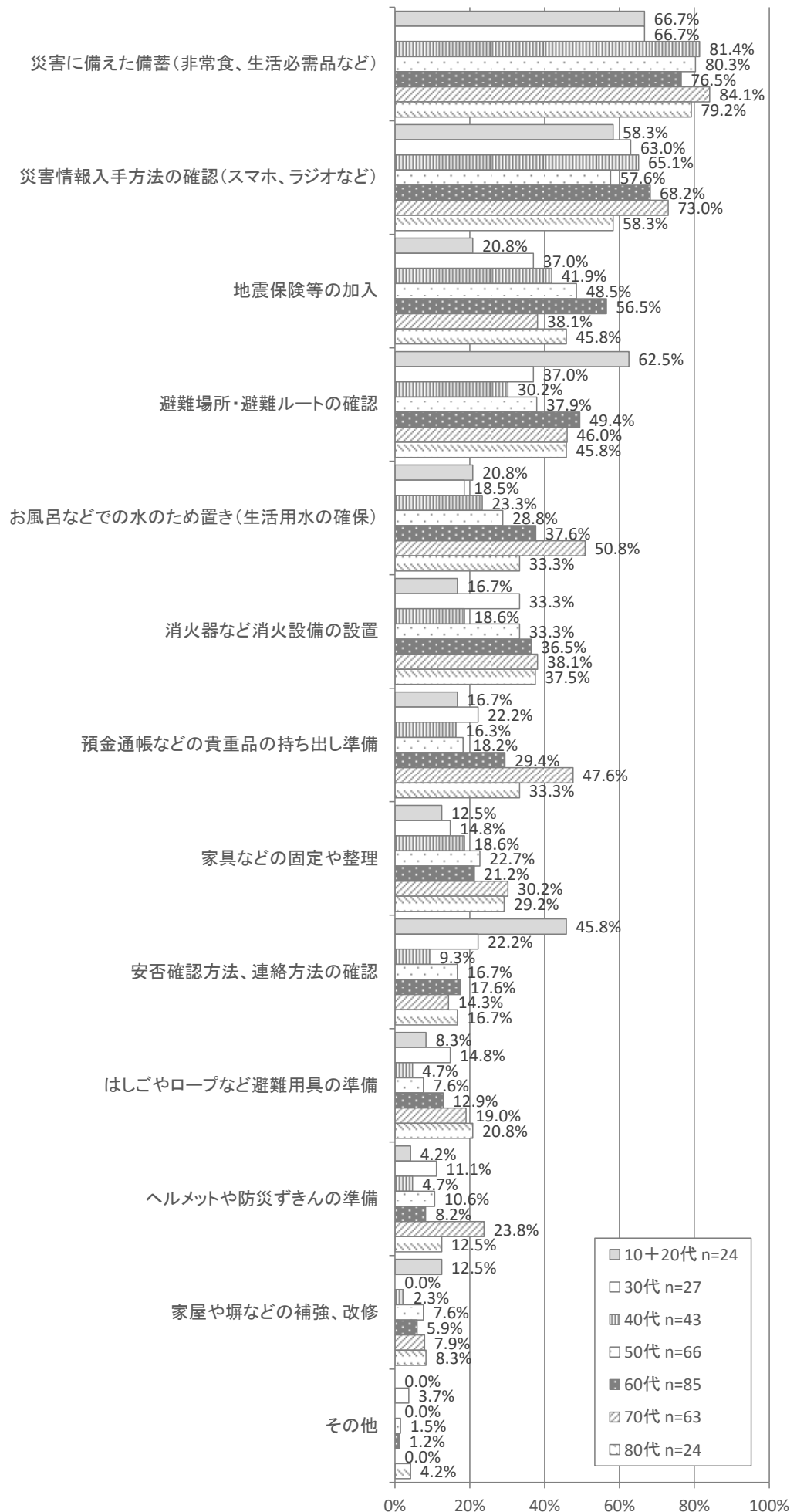
- 全体では、「災害に備えた備蓄（非常食、生活必需品など）」の割合が78.1%で最も高く、次いで「災害情報入手方法の確認（スマホ、ラジオなど）」が64.6%となっており、「地震保険等の加入」「避難場所・避難ルートの確認」と続いている。上位2項目の回答が突出しており、さらに「災害に備えた備蓄（非常食、生活必需品など）」が突出している。
- 年代別で見ると、「災害に備えた備蓄（非常食、生活必需品など）」の割合は40代以上で高くなっており、「お風呂などでの水のため置き（生活用水の確保）」「消火器など消火設備の設置」「預金通帳などの貴重品の持ち出し準備」「家具などの固定や整理」「はしごやロープなど避難用具の準備」の割合は50代または60代以上の高い年代で高くなっている。また、「避難場所・避難ルートの確認」「安否確認方法、連絡方法の確認」の割合は、10代と20代を合わせた年代で突出している。

■全体



3. 1. 4 個別事業評価「家庭での災害への備えについて」

■年代別



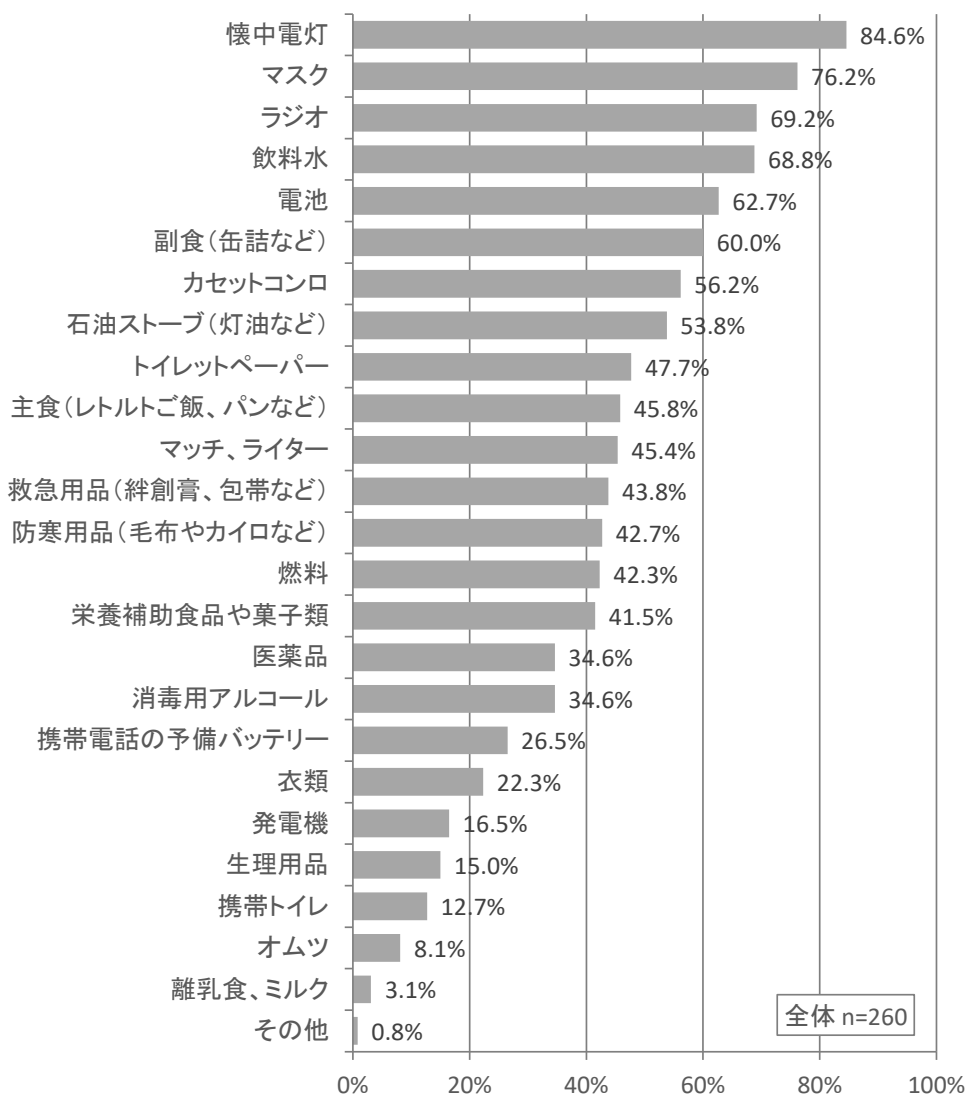
■その他の回答

- 消雪用地下水くみ上げポンプ（男性／80代以上／大曲）
- 太陽光発電、蓄電器（男性／50代／大曲）
- 焚火用の薪などの火の確保（男性／30代／太田）

【問4】 備蓄品はどのような品目を準備していますか。（複数回答可）

（問3で「1. 災害に備えた備蓄」を選択した方）

- 「懐中電灯」の割合が84.6%で最も高く、次いで「マスク」が76.2%、「ラジオ」が69.2%となっており、「飲料水」「電池」と続いている。
- 食料品類については、「飲料水」の割合が68.8%で最も高く、次いで「副食（缶詰など）」が60.0%、「主食（レトルトご飯、パンなど）」が45.8%となっている。

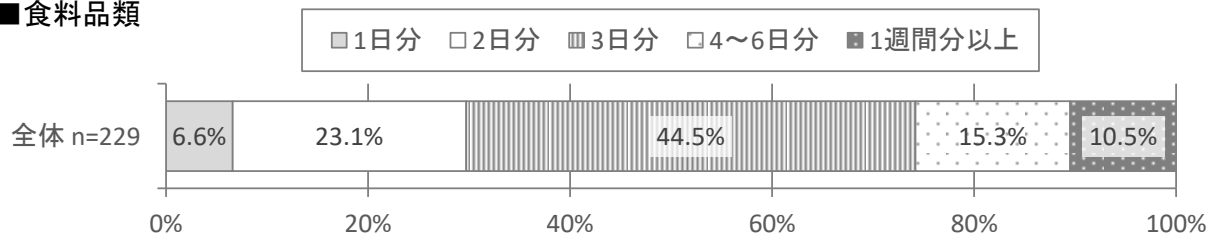
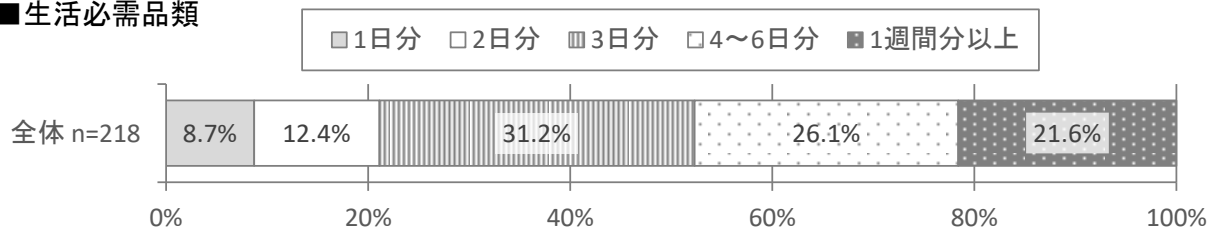


■その他の回答

- ペット用品（女性／60代／神岡）

【問5】 備蓄品は何日分準備していますか。（問3で「1. 災害に備えた備蓄」を選択した方）

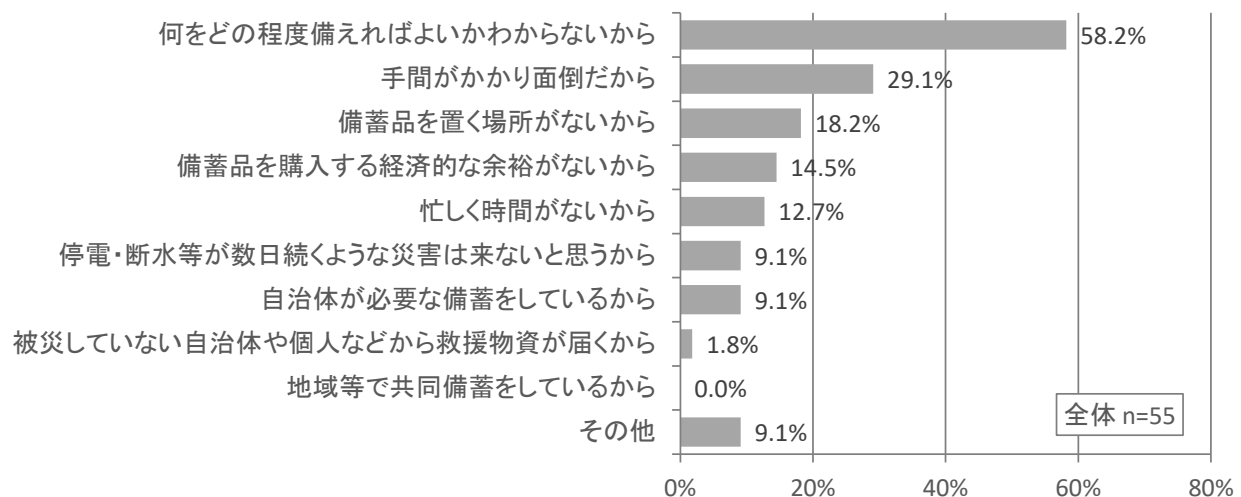
- 食料品類では、「3日分」の割合が44.5%で最も高く、推奨日数である「3日分」以上の日数の割合を合わせると70.3%となっており、7割を超えている。
- 生活必需品類では、食料品類と同様に「3日分」の割合が31.2%で最も高く、推奨日数である「3日分」以上の日数の割合を合わせると78.9%となっており、8割近くを占めている。食料品類よりも割合が高くなっており、さらに、「4～6日分」「1週間分以上」の割合もそれぞれ高くなっている。

■食料品類

■生活必需品類

【問6】 災害に備えた備蓄をしていない理由は何ですか。（複数回答可）

（問3で「1. 災害に備えた備蓄」を選択しなかった方）

- 「何をどの程度備えればよいかわからないから」の割合が58.2%で突出しており、次いで「手間がかかり面倒だから」が29.1%となっている。

さらに、「備蓄品を置く場所がないから」「備蓄品を購入する経済的な余裕がないから」と続いており、物理的・経済的な理由により備蓄できない方も一定数いる結果となっている。



■その他の回答

- 日常のものでなんとかなる（男性／60代／仙北）
- 米、野菜等は自宅にあるから（男性／70代／協和）
- 自身の意識が低いから（男性／40代／大曲）
- なんとなく安直に考えている（男性／60代／南外）
- 非常食を備蓄していたが、賞味期限切れになり、補充していなかった（女性／40代／大曲）

【問7】災害への備えをしていない理由は何ですか。（複数回答可）

（問2で「2. 備えていない」と回答した方）

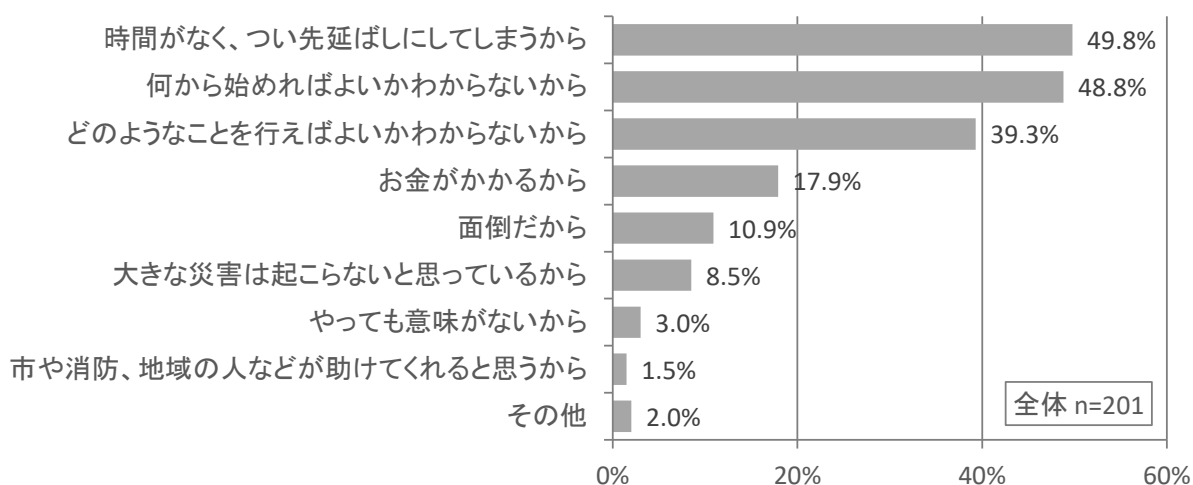
○ 全体では、「時間がなく、つい先延ばしにしてしまうから」の割合が49.8%で最も高く、次いで「何から始めればよいかわからないから」が48.8%、「どのようなことを行えばよいかわからないから」が39.3%となっており、上位3項目の回答が突出している。

○ 年代別で見ると、50代以下では「時間がなく、つい先延ばしにしてしまうから」、60～70代では「何から始めればよいかわからないから」、80代では「どのようなことを行えばよいかわからないから」の割合が最も高くなっている。

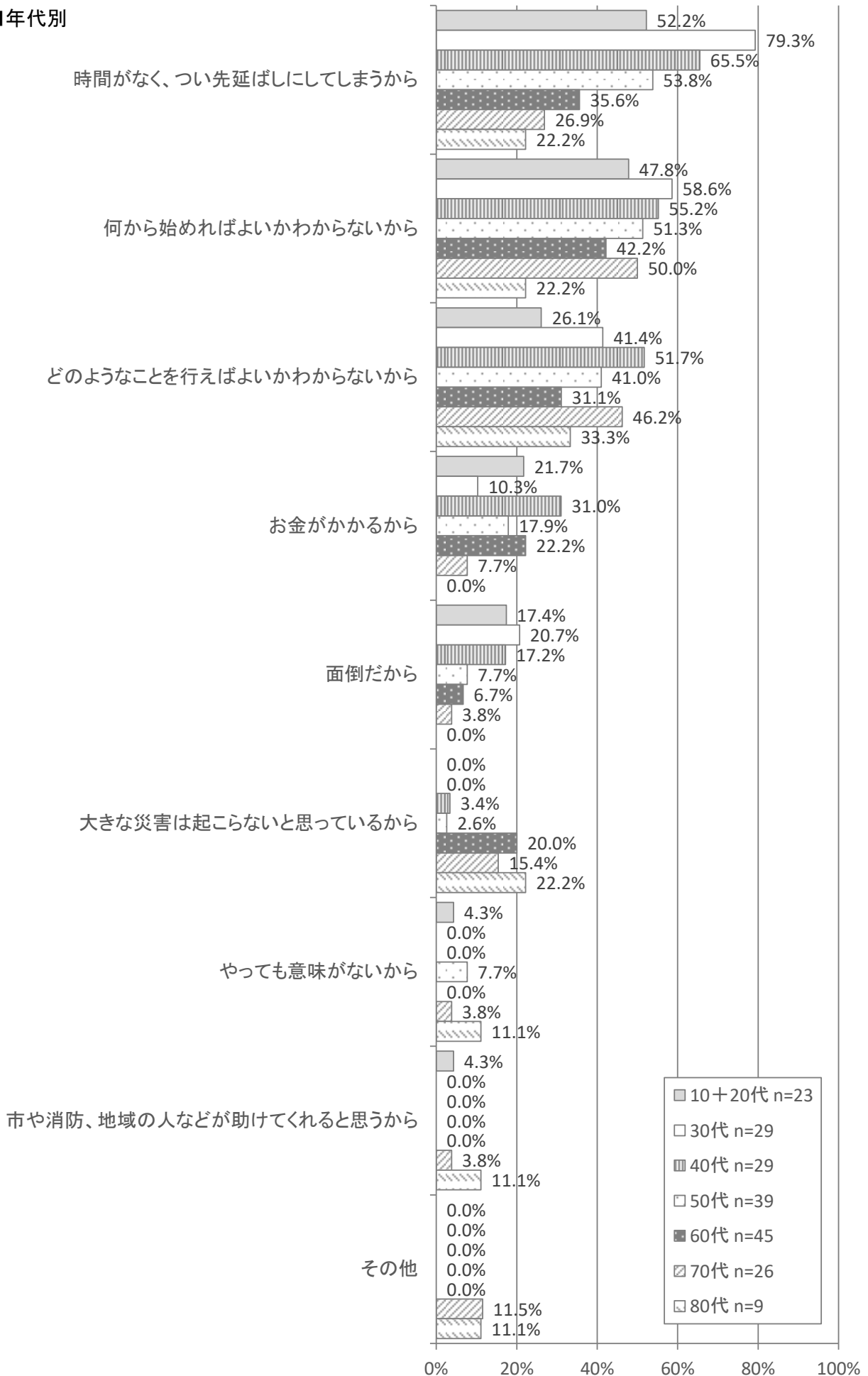
また、「時間がなく、つい先延ばしにしてしまうから」「何から始めればよいかわからないから」「面倒だから」の割合は、30代以上で年代が上がるにつれて減少する傾向となっている。

さらに、「大きな災害は起こらないと思っているから」の割合は60代以上で高くなっている。

■全体



■年代別



■その他の回答

- 準備しておいても地震などどこで起こるかわからないから（女性／80代以上／仙北）
- 水害も山崩れもない場所だと思っているから（女性／70代／大曲）
- 備えなければと思いつつ、この現状です。（女性／70代／大曲）

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

○ 問2で災害に対して各家庭で備えていると回答した方が6割を超えている一方で、4割近い方が災害に対する備えをしていないという結果となった。年代が上がるにつれて備えていると回答した割合が高くなる傾向にあり、若い世代の防災意識の向上を図る方法を検討する必要がある。

○ 問2で災害に対して各家庭で備えていると回答した方のうち、具体的な備えとして回答した割合が最も高かった項目は、問3の結果のとおり「災害に備えた備蓄（非常食、生活必需品など）」で78.1%となっており、これまで市が実施してきた広報やホームページ等での呼びかけが成果として現れていると推測される。

しかしながら、問6の結果のとおり、災害に備えた備蓄をしていない方の理由として、「何をどの程度備えればよいかわからないから」の割合が58.2%で最も高いことから、情報が不足しているために備蓄を行っていない方が多くいることがわかる。具体的にどのような備蓄をすればよいのか、何日分の備蓄を準備すればよいのかなど、今後も様々な手段で周知を行っていく必要がある。

○ 市では3日以上以上の災害時に備えた備蓄を推奨しており、これまで広報やホームページ等で周知を行っている。問3で「災害に備えた備蓄（非常食、生活必需品など）」と回答した方のうち、3日以上準備していると回答した割合は、問5の結果のとおり食料品類で70.3%、生活必需品類で78.9%となっており、すでに備蓄している方にとっては3日以上以上の準備が必要という意識がある程度浸透しているものと思われる。

○ 今後、災害に対して各家庭で備えを行っていない方への意識付けが重要であり、より市民の目に触れやすい周知方法の検討や、自主防災組織や防災士を通じた市民への呼びかけ、今年度更新する新規ハザードマップの情報の充実等に取り組んでいく。